

平成29年度「日本語教育総合調査」 日本語教員養成における教育実習及び現職者研修についての調査研究

1. 目的

日本語教員の養成・研修実施機関で行われている教育実習及び現職者に対する研修の現状を把握するとともに、それらの課題を整理し、教育実習におけるモデルプログラム案を提示することを目的とする。

2. 調査研究の内容

- ①養成・研修の実施機関に対するアンケート調査
- ②養成・研修の実施機関に対するヒアリング調査
- ③教育実習におけるモデルプログラム案の検討

3. 有識者会議メンバー（五十音順）

加藤 早苗 インターカルト日本語学校 代表
川端 一博 公益財団法人日本国際教育支援協会
日本語試験センター試験開発グループリーダー併任作題主幹
西原 鈴子 特定非営利活動法人日本語教育研究所 理事
矢崎 理恵 社会福祉法人さぼうとにじゅういち 学習支援室コーディネーター
横溝 紳一郎 西南女学院大学 人文学部英語学科 教授

4. アンケート調査について

※別添参照

5. ヒアリング調査について

(1) 調査対象

9機関（教育実習：インターカルト日本語学校、千駄ヶ谷日本語教育研究所、聖心女子大学、東京女子大学、広島大学）

（現職者研修：カイ日本語スクール、学校法人長沼スクール 東京日本語学校、コミュニケーション学院、（独）国際交流基金 日本語国際センター）

(2) 主な聞き取り事項

- ・プログラムの特徴や工夫している点
- ・教員や受講者の実態
- ・今後の課題 等

6. 今後の予定

10月 ヒアリング調査の結果を受託会社から文化庁に報告

12月 教育実習におけるモデルプログラム案を受託会社から文化庁に報告

日本語教員養成プログラム及び教育実習 内容等に関するアンケート調査結果 (概要)

目次

1. 調査の概要	2
2. 日本語教員養成プログラムにおける教育実習内容に関するアンケート調査結果 (概要)	3
(1) 日本語教員養成プログラム全般について (概要)	4
(2) 教育実習全般について (概要)	11
(3) 「授業見学」について (概要)	16
(4) 「教案・教材作成」について (概要)	23
(5) 「模擬授業(実習)」について (概要)	26
(6) 「授業(実習)」について (概要)	36
(7) 「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」について (概要)	54
(8) 「その他の実施事項」について (概要)	58
3. 日本語教員現職者に対する研修内容に関するアンケート調査結果 (概要)	61

1. 調査の概要

1 目的

日本語教員養成を行っている日本語教育機関等(以下、養成機関)を対象として、日本語教員養成プログラムにおける教育実習及び現職の日本語教員を対象とした研修(以下、現職者研修)の実態について現状を把握し、モデルプログラム案を検討する上での基礎資料とすることを目的とする。

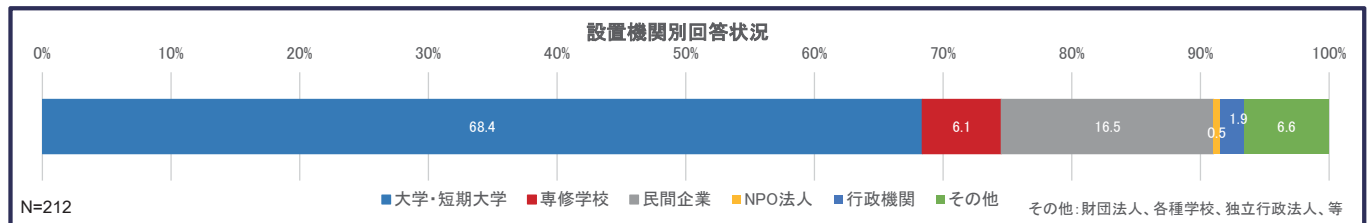
2 実施時期および方法

平成29年6月21日～7月28日

eメールによる調査票の発送(一部郵送による調査票の発送)及び回答票回収

3 対象

本調査は、日本語教員養成420時間実施校52機関、短期プログラム等実施校44機関、左記を除く大学・短期大学180機関、左記を除く専修学校12機関の計288機関を対象として実施(回答票数212。機関回答率70.4%)



2. 日本語教員養成プログラムにおける 教育実習内容に関するアンケート調査結果 (概要)

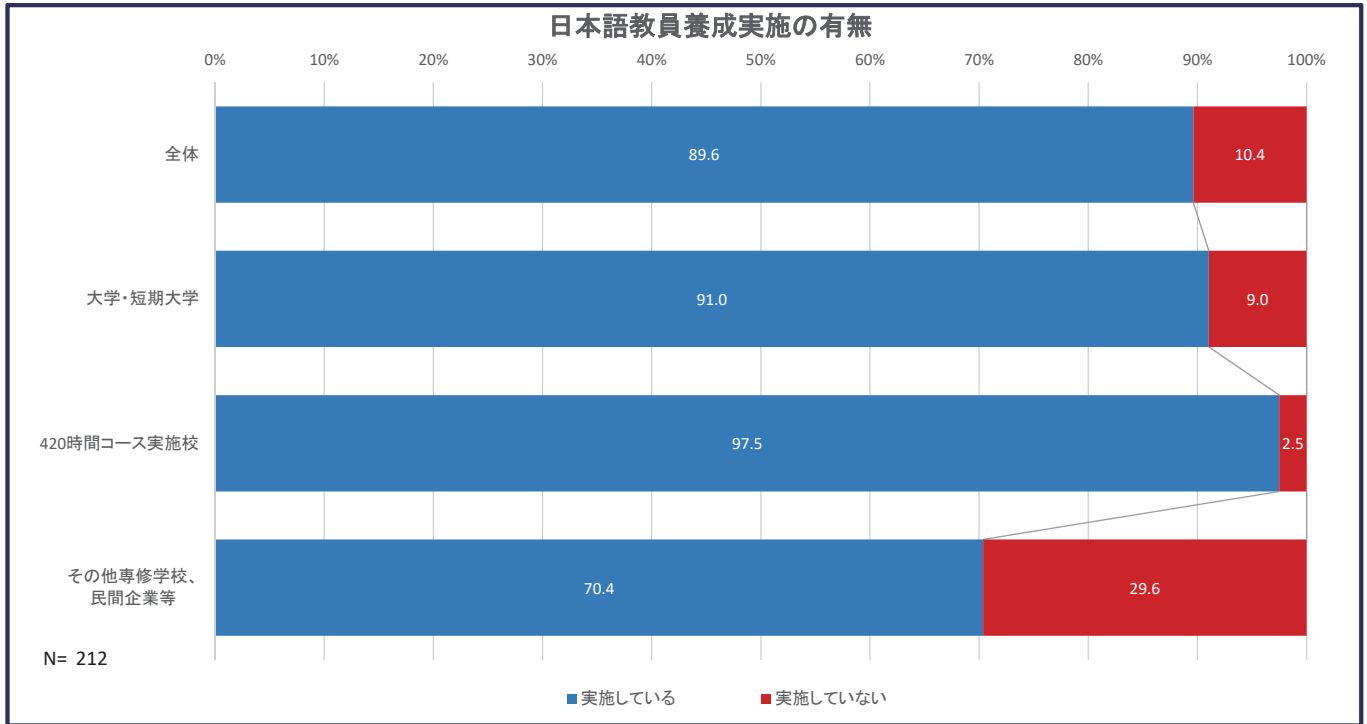
3

(1) 日本語教員養成プログラム全般について (概要)

4

日本語教員養成プログラム全般について 「日本語教員養成プログラム実施の状況」

- 日本語教育を実施している機関の内、9割が日本語教員養成プログラムを実施している。
- その他専修学校・民間企業等では、3割が実施していない。



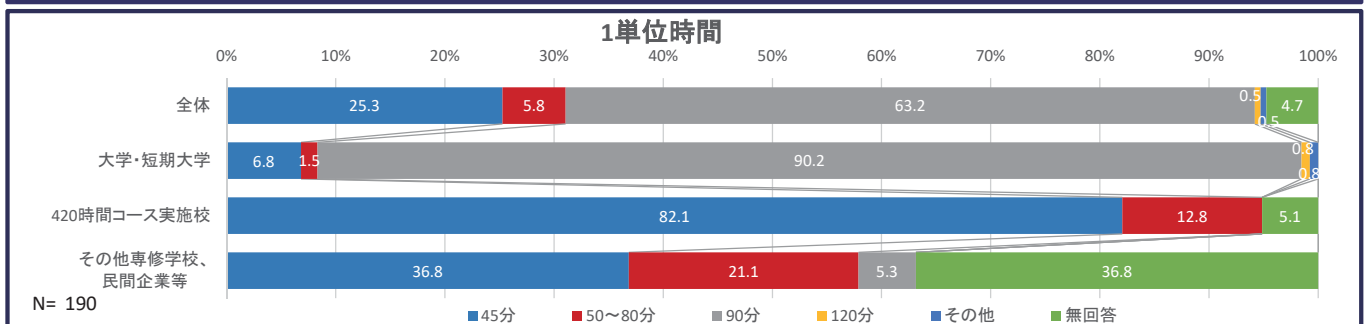
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

5

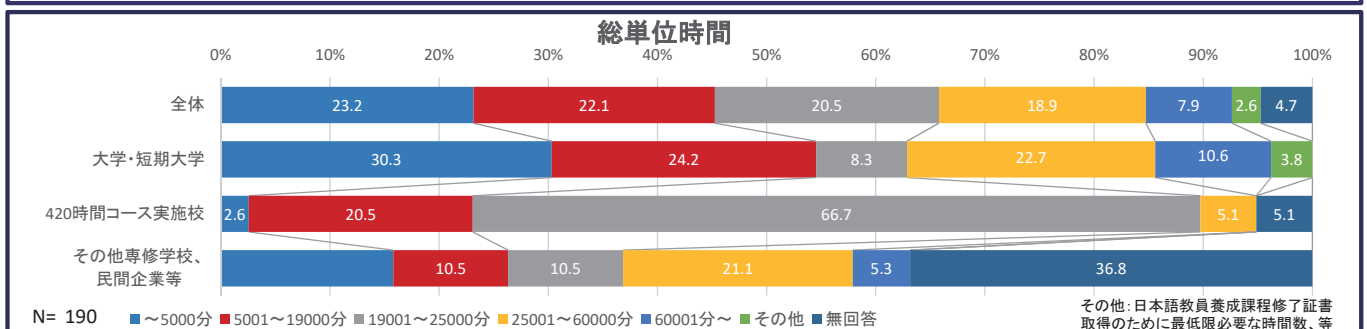
日本語教員養成プログラム全般について ① 対面授業における「1単位時間」並びに「総単位時間数」

*日本語教員養成プログラムを実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員養成プログラムを実施している機関について、対面授業の1単位時間を見ると、全体の6割が「90分」と回答。
- 大学・短期大学では9割が「90分」と回答しているのに対して、420時間コース実施校では8割、その他専修学校・民間企業等では4割が「45分」と回答。



- 総単位時間を見ると、全体の6割強が「25000分以下」と回答。420時間コース実施校では9割弱が「25000分以下」と回答しているのに対して、その他専修学校・民間企業等では6割が「25001分以上」と回答。



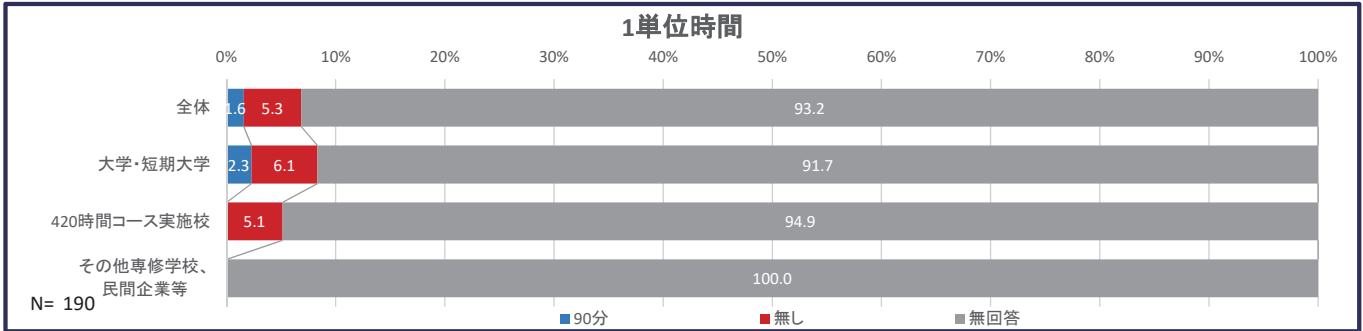
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

6

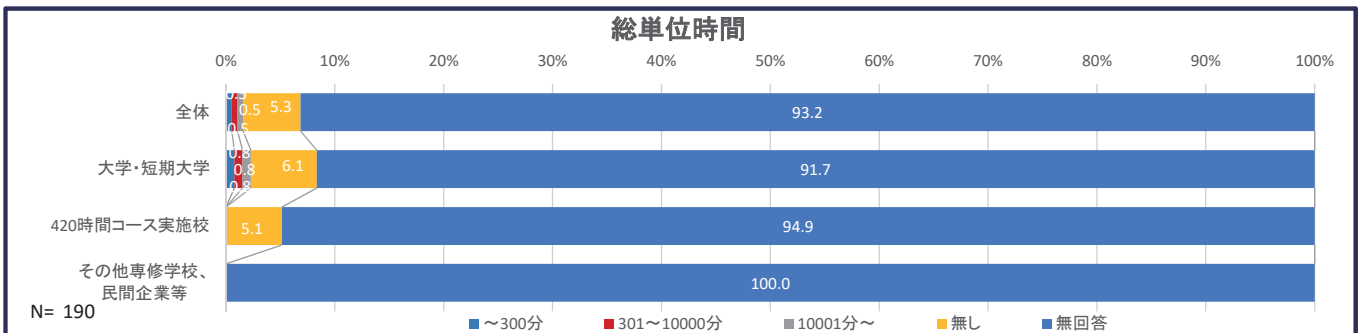
日本語教員養成プログラム全般について ② 通信（双方向性有り）における「1単位時間」並びに「総単位時間数」

*日本語教員養成プログラムを実施しているとした機関のみの回答

- 無回答は「通信（双方向性有り）」実施をしていない機関であり、全体の93%が通信授業を実施していない。
- 一部の大学・短期大学に、スクーリング時等に90分を定めている機関があるが、多くは1単位時間を定めていない。



- 上記同様、無回答は「通信（双方向性有り）」実施をしていない機関である。
- 一部の大学・短期大学に、総単位時間を定めている機関がある。



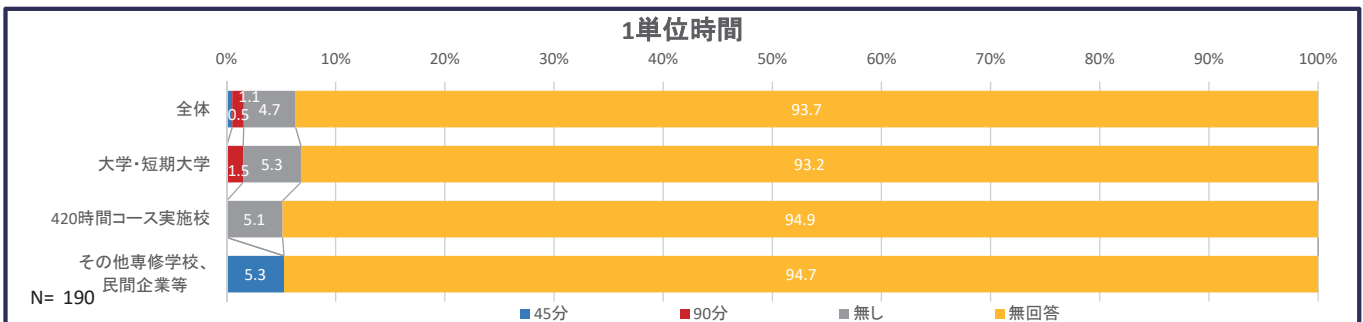
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

7

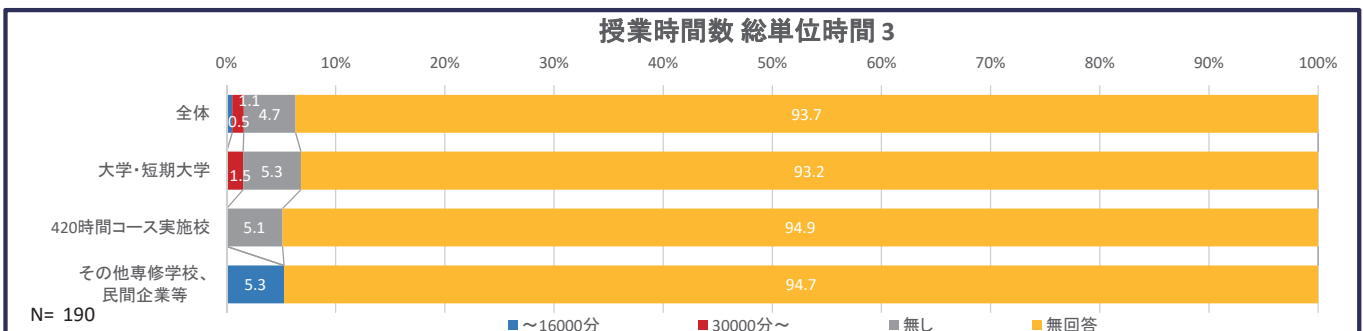
日本語教員養成プログラム全般について ③ 通信（双方向性なし）における「1単位時間」並びに「総単位時間数」

*日本語教員養成プログラムを実施しているとした機関のみの回答

- 無回答は「通信（双方向性なし）」実施をしていない機関であり、全体の93%が通信授業を実施していない。
- 一部の大学・短期大学、その他専修学校・民間企業等で1単位時間を定めている機関があるが、多くは1単位時間を定めていない。



- 上記同様、無回答は「通信（双方向性なし）」実施をしていない機関である。
- 一部の大学・短期大学、その他専修学校・民間企業等で総単位時間を定めている機関がある。



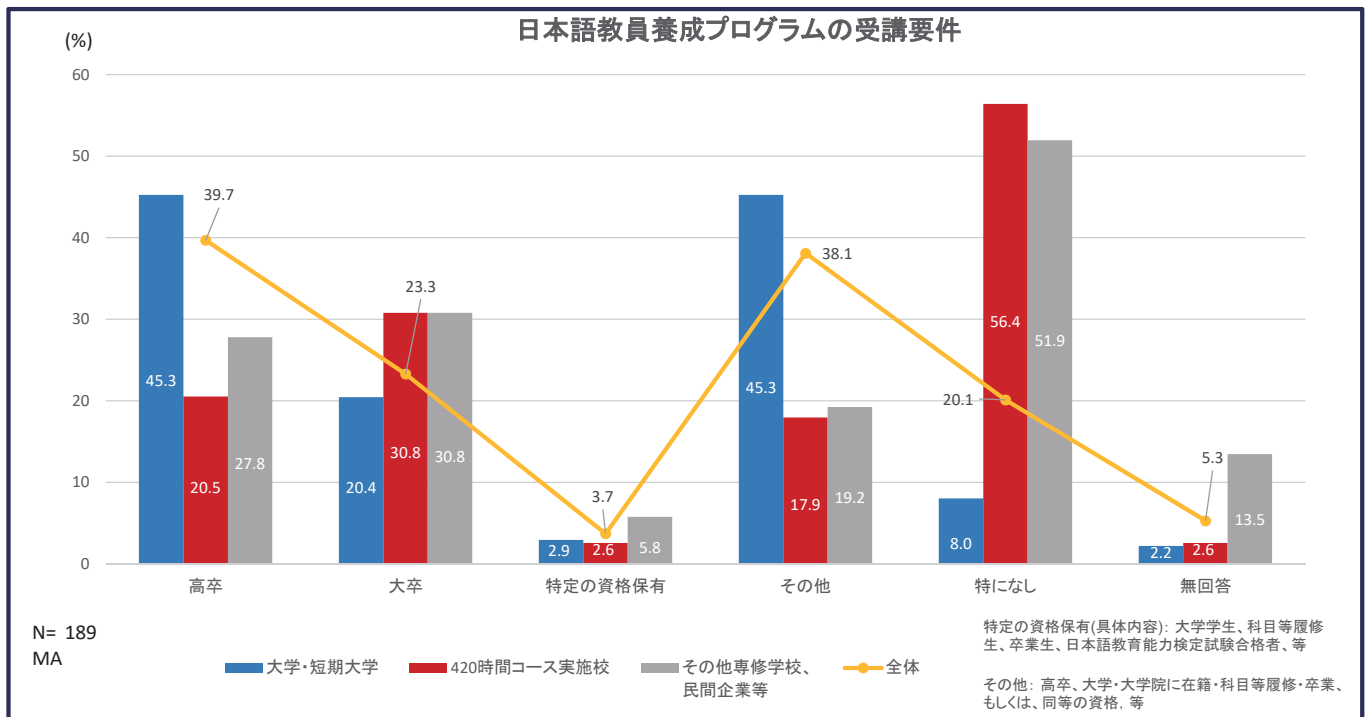
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

8

■ 日本語教員養成プログラム全般について「日本語教員養成プログラム受講要件」

*日本語教員養成プログラムを実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員養成プログラムを実施している機関について、プログラムの受講要件を見ると、「高卒」(4割)、「その他」(4割)、「特になし」(2割)とする割合が高い。
- 大学・短期大学では「高卒」「その他」とする割合が相対的に高く、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では「特になし」「大卒」とする割合が相対的に高い。



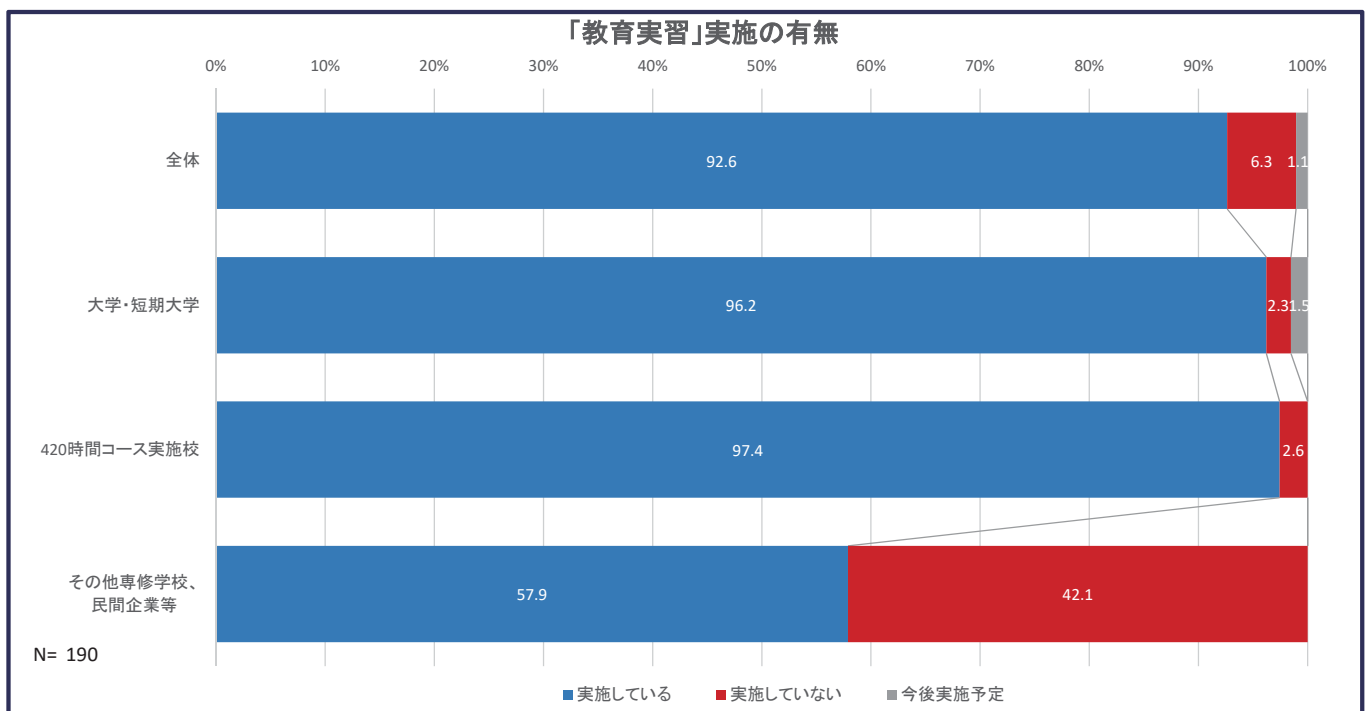
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

9

■ 日本語教員養成プログラム全般について「教育実習実施の状況」

*日本語教員養成プログラムを実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員養成プログラムを実施している機関の内、9割の機関が教育実習を実施している。
- その他専修学校・民間企業等では、4割が実施していない。



出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

10

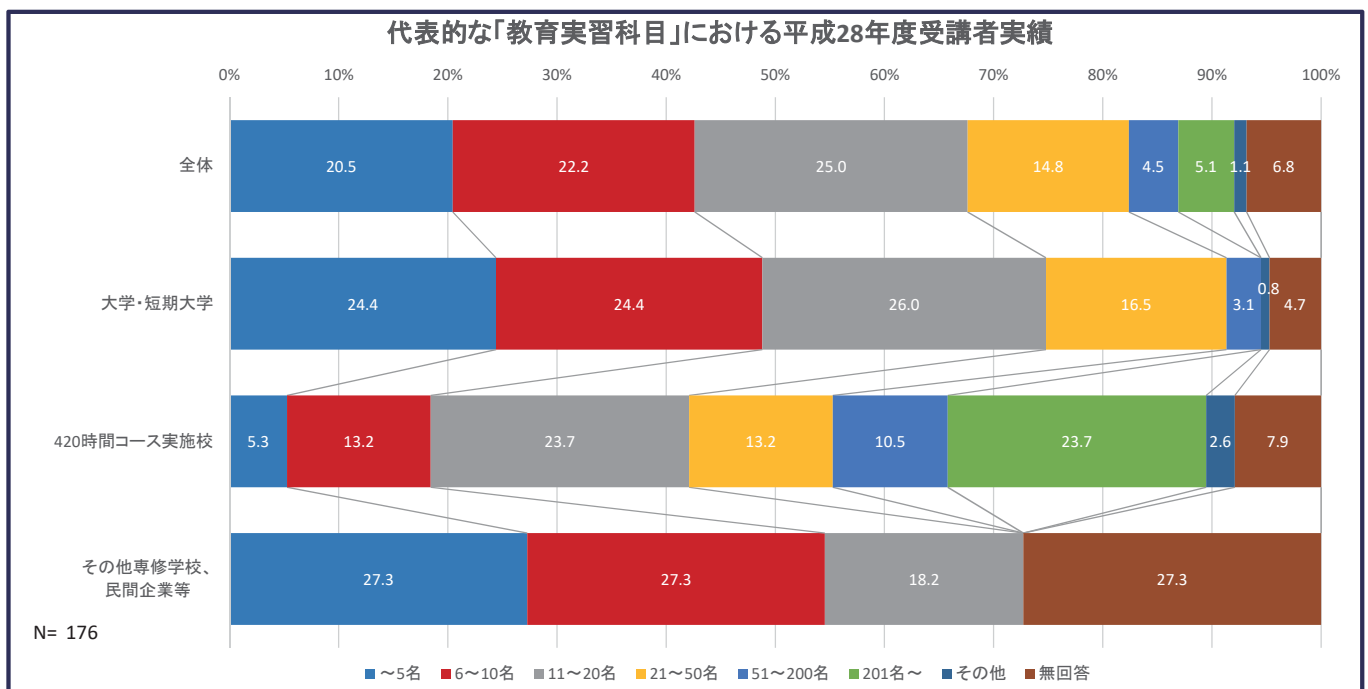
(2) 教育実習全般について (概要)

出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

■ 教育実習状況全般について 「代表的な「教育実習科目」における平成28年度受講者実績」

*教育実習を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関について、代表的な「教育実習科目」における平成28年度受講者実績を見ると、全体の7割弱が「20名以下」としている。
- 大学・短期大学、その他専修学校・民間企業等の7割強が「20名以下」としているのに対して、420時間コース実施校の5割は「21名以上」としている。また、大学・短期大学では「201名以上」の機関がほとんどなかったのに対して、420時間コース実施校の2割は「201名以上」としている。

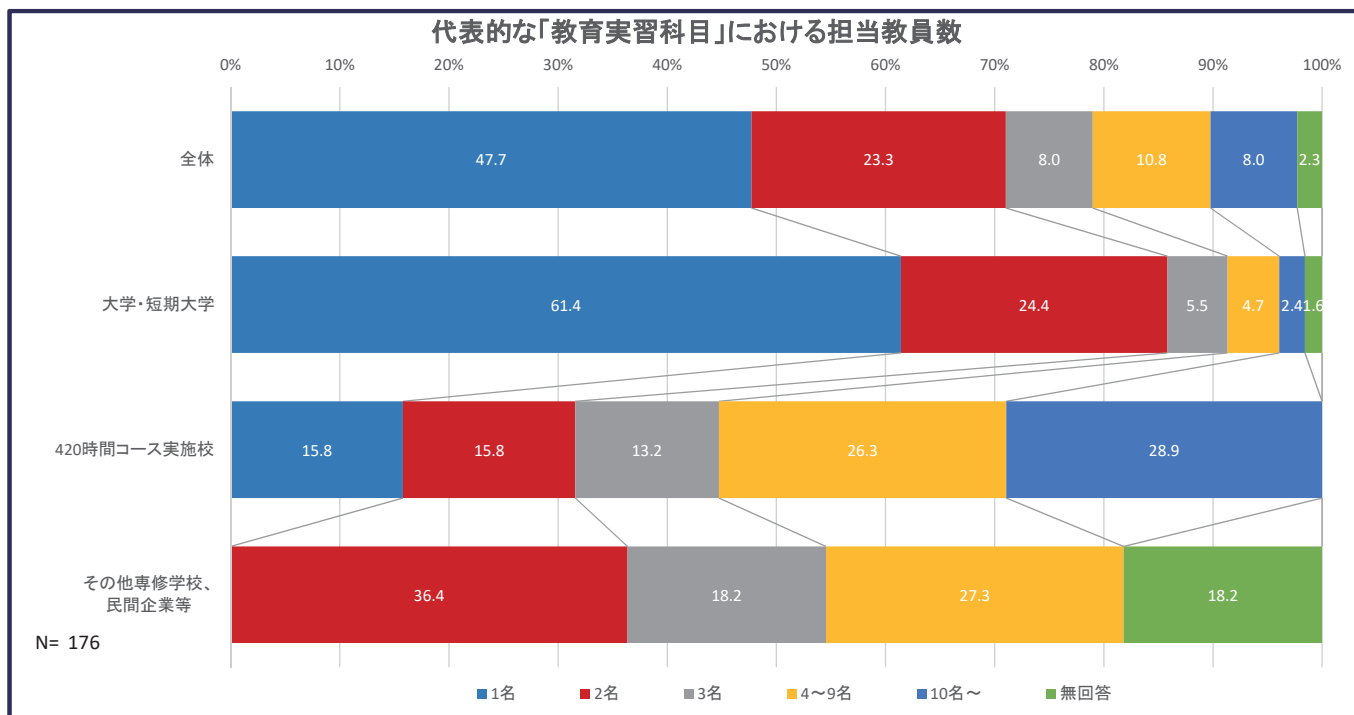


出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

■ 教育実習状況全般について 「代表的な「教育実習科目」における担当教員数」

*教育実習を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関について、代表的な「教育実習科目」における担当教員数を見ると、全体の5割弱が「1人」、2割強が「2人」としている。
- 大学・短期大学の6割が「1人」としているのに対して、420時間コース実施校の7割、その他専修学校・民間企業等の6割強が「3人以上」としている。



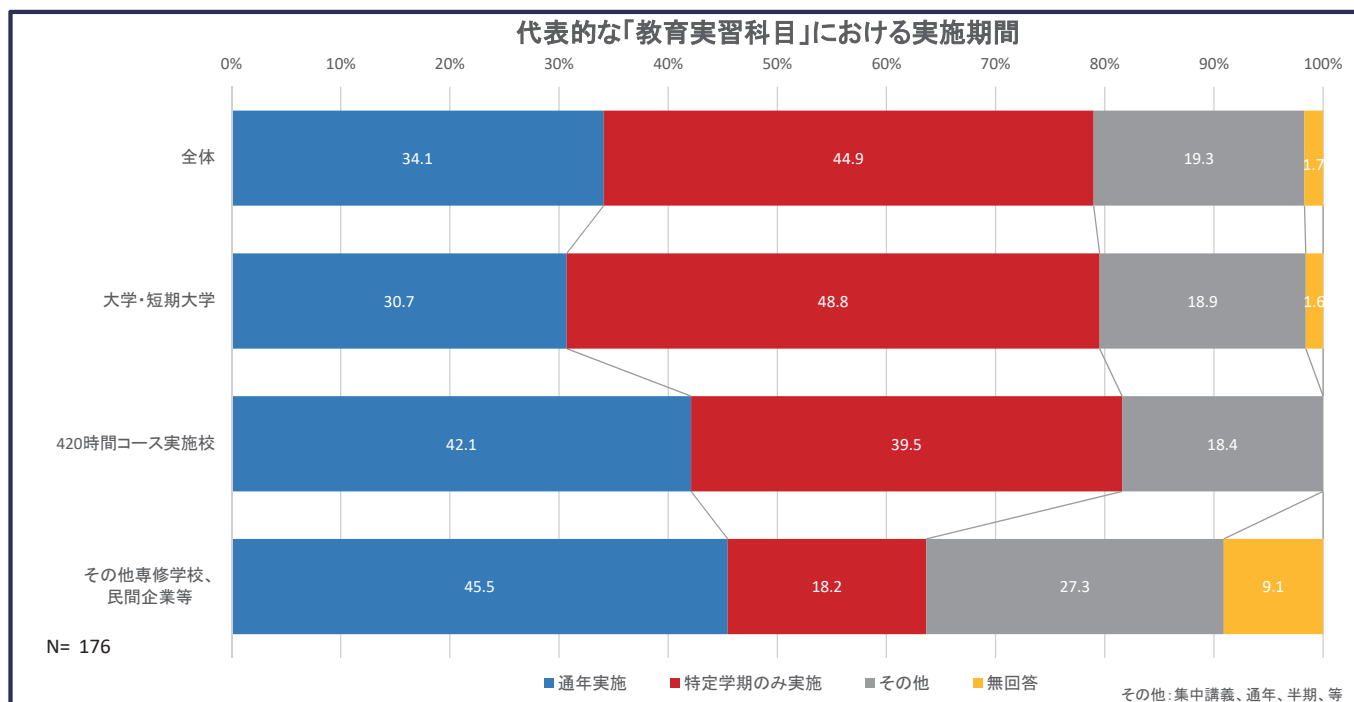
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

13

■ 教育実習状況全般について 「代表的な「教育実習科目」における実習期間」

*教育実習を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関について、代表的な「教育実習科目」における実習期間を見ると、「通年実施」が3割、「特定学期のみ実施」が4割強である。
- 大学・短期大学では「通年実施」の割合が3割であるのに対して、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では4割強である。



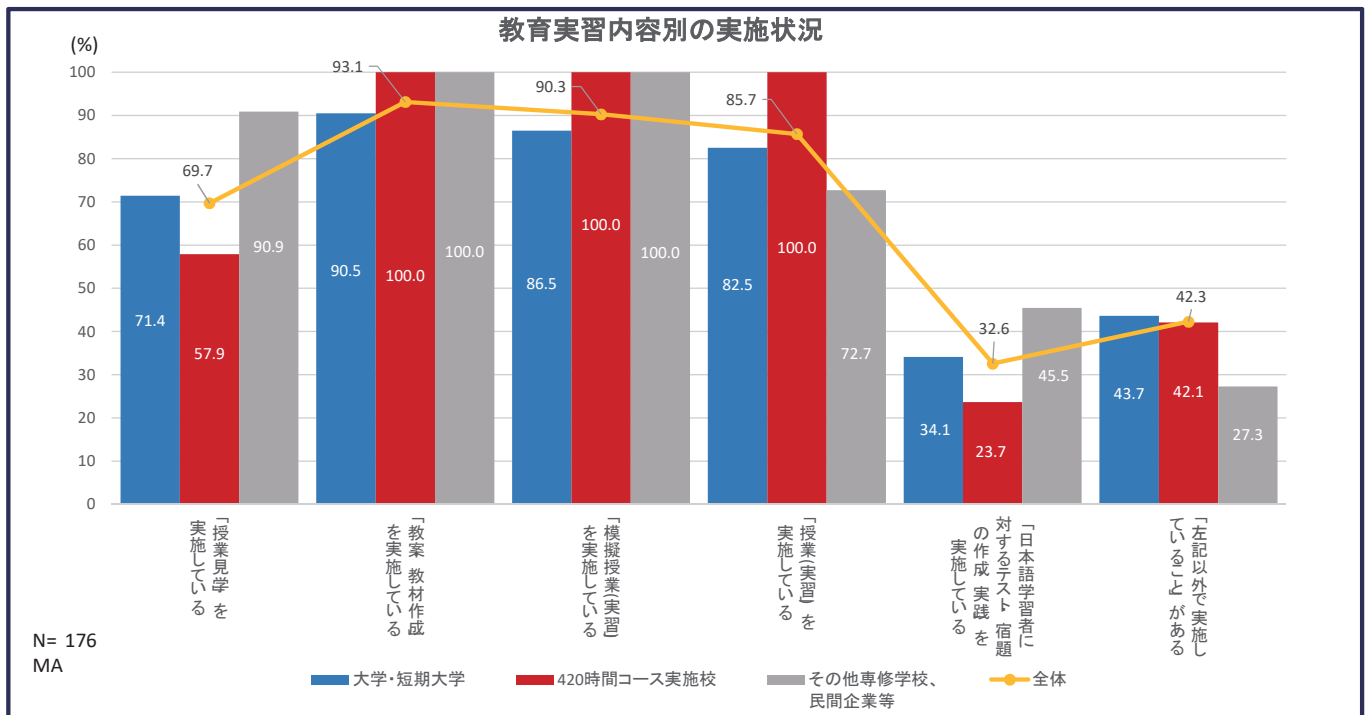
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

14

■ 教育実習状況全般について 「教育実習内容別の実施状況」

*教育実習を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関について、教育実習内容別の実施状況を見ると、全体の9割以上が「教案・教材作成」「模擬授業(実習)」を実施している。
- 専修学校・民間企業等は大学・短期大学に比べて、「教案・教材作成」「模擬授業(実習)」を実施する割合が若干高い。また、420時間コース実施校は「授業(実習)」、その他専修学校・民間企業等は「授業見学」「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」を実施する割合が若干高い。



出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

15

(3) 「授業見学」について (概要)

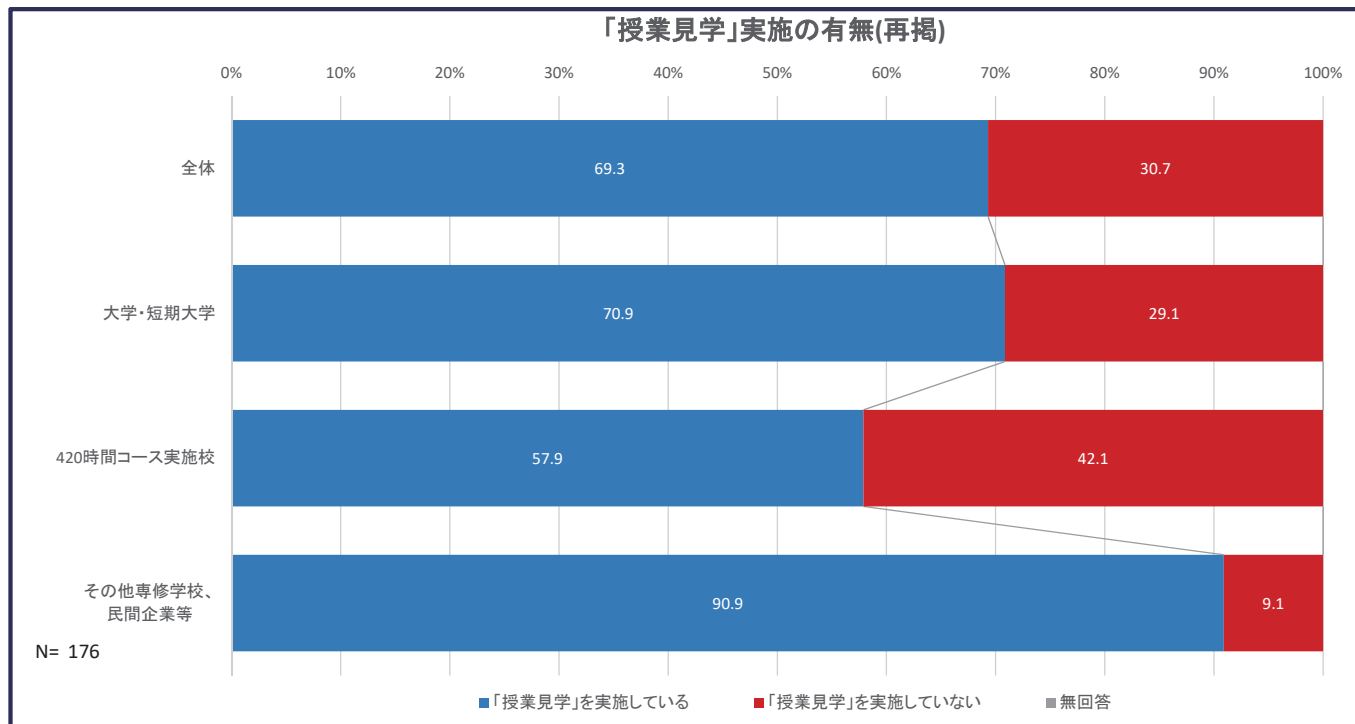
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

16

「授業見学」について 実施の有無(再掲)

*「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、7割が授業見学を実施している。
- 実施の割合は420時間コース実施校が低く、その他専修学校・民間企業等が高い。



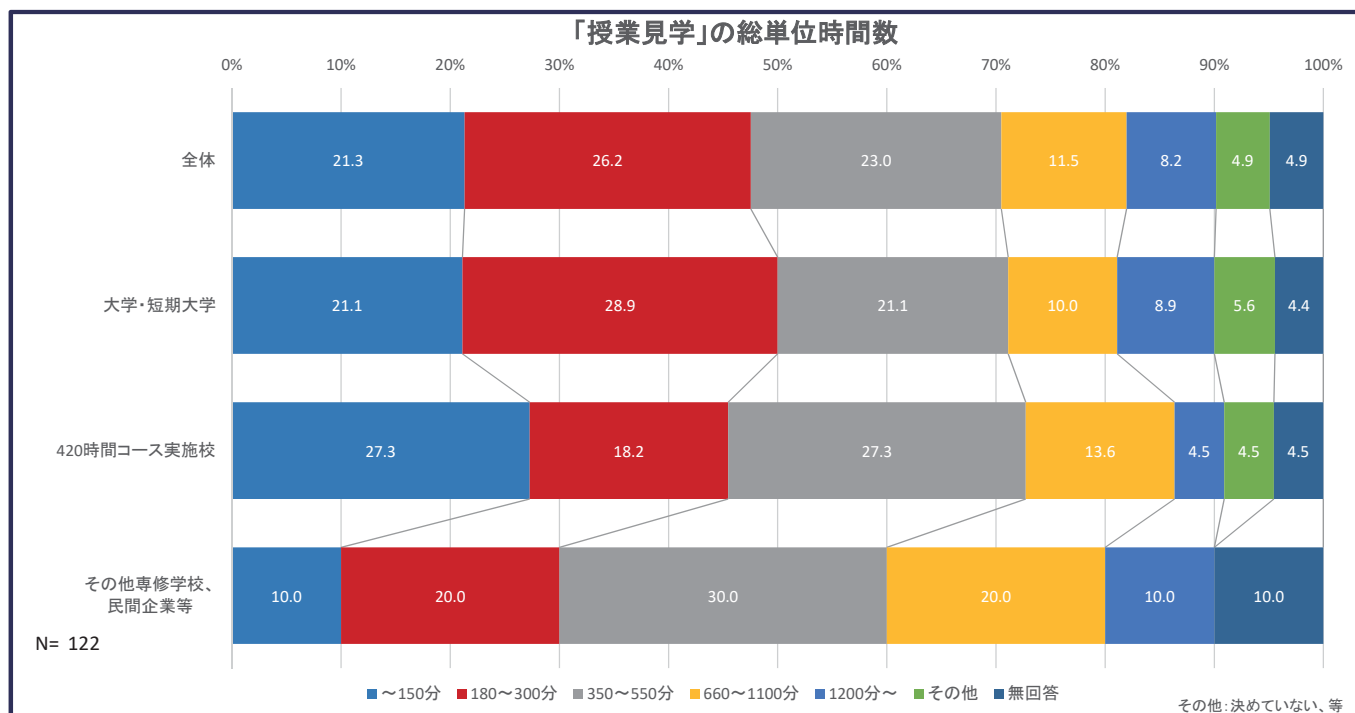
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

17

「授業見学」について 総単位時間数

*「授業見学」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業見学を実施している機関について、総単位時間数を見ると、全体の2割が「～150分」、3割弱が「180～300分」となっている。
- 大学・短期大学、420時間コース実施校では5割が「300分以下」であるのに対して、その他専修学校・民間企業等では6割が「350分以上」となっている。



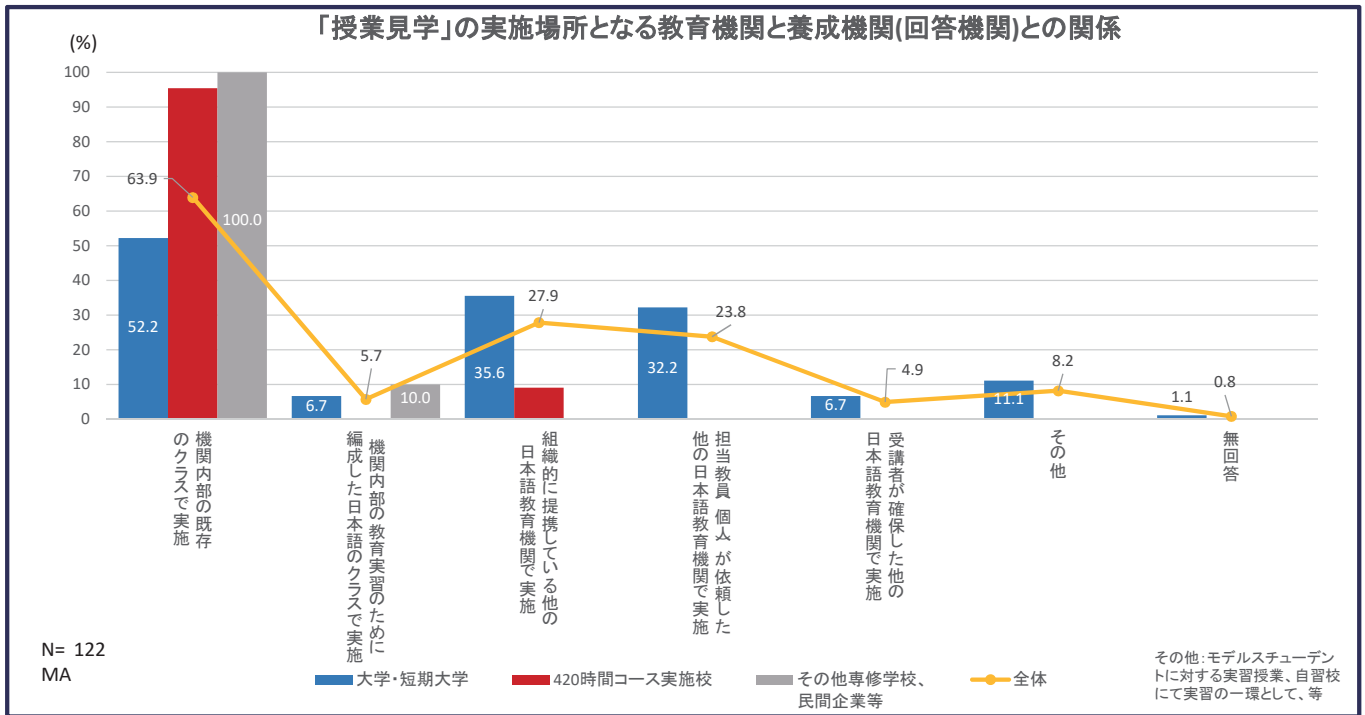
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

18

「授業見学」について 「授業見学」の実施場所となる教育機関と養成機関(回答機関)との関係

*「授業見学」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業見学を実施している機関について、授業見学の実施場所となる教育機関と養成機関(回答機関)との関係を見ると、全体の6割が「機関内部の既存のクラスで実施」している。(特に420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等ではほぼ全てが該当)
- 大学・短期大学で「機関内部の既存のクラスで実施」しているのは5割であり、「組織的に提携している他の日本語教育機関で実施」「担当教員(個人)が依頼した他の日本語教育機関で実施」がそれぞれ3割強となっている。



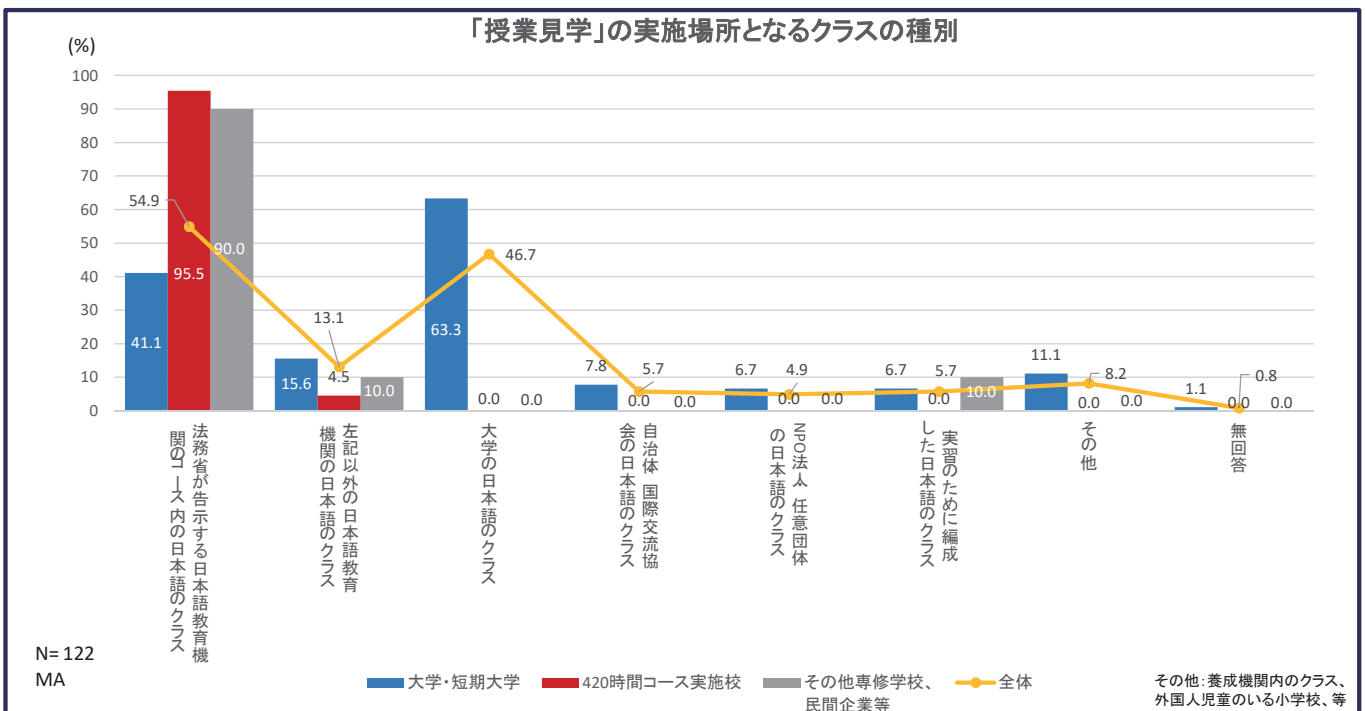
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

19

「授業見学」について 「授業見学」の実施場所となるクラスの種別

*「授業見学」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業見学を実施している機関について、授業見学の実施場所となるクラスの種別を見ると、全体の5割強が「法務省が告示する日本語教育機関のコース内の日本語のクラス」、5割弱が「大学の日本語のクラス」としている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では9割強が「法務省が告示する日本語教育機関のコース内の日本語のクラス」としているのに対して、大学・短期大学の6割強が「大学の日本語のクラス」としている。



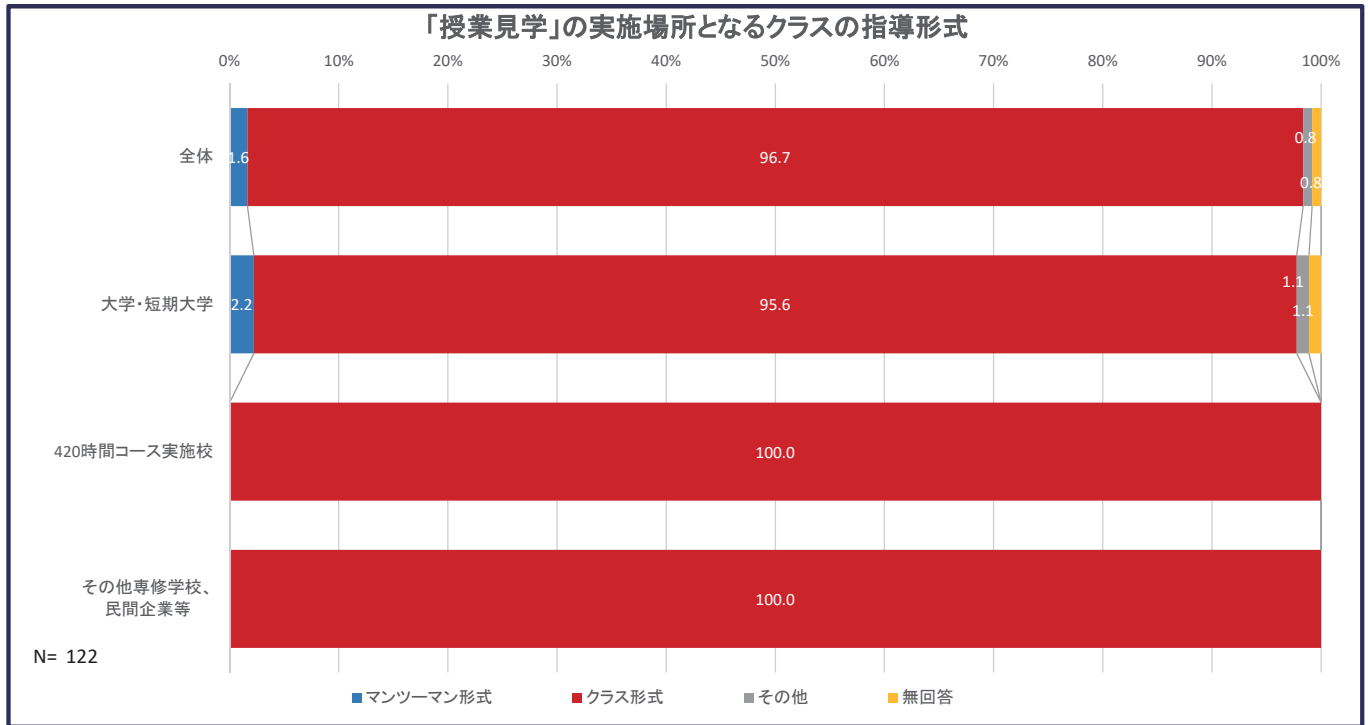
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

20

■ 「授業見学」について 授業見学の実施場所となる「クラスの指導形式」

* 「授業見学」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業見学を実施している機関の内、9割強がクラス形式で実施している。
- 大学・短期大学の中の一部の機関は、マンツーマン形式・その他の形式で実施している。



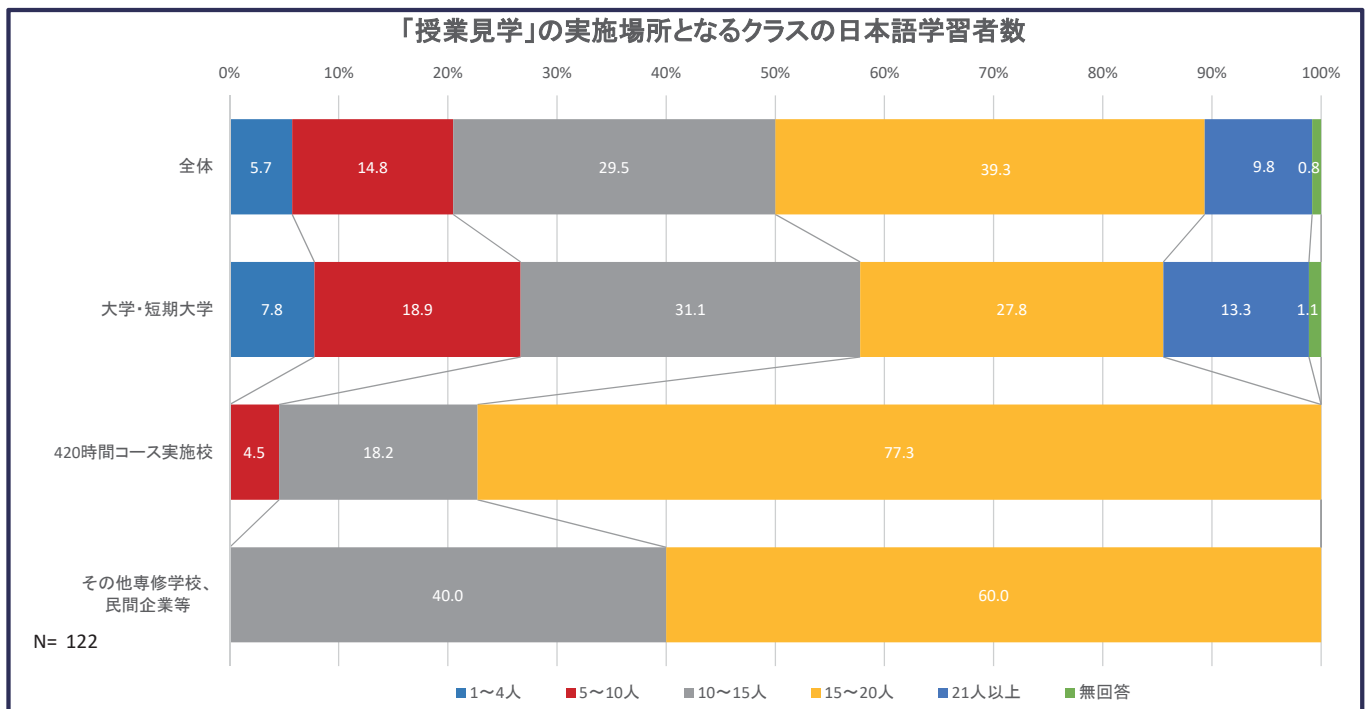
出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

21

■ 「授業見学」について 授業見学の実施場所となる「クラスの日本語学習者数」

* 「授業見学」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業見学を実施している機関について、授業見学の実施場所となる「クラスの日本語学習者数」を見ると、全体の5割が「15人以下」としている。
- 大学・短期大学では6割弱が「15人以下」としているのに対して、420時間コース実施校の7割、その他専修学校・民間企業等では6割が「15人以上」である。



出典：文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

22

(4) 「教案・教材作成」について (概要)

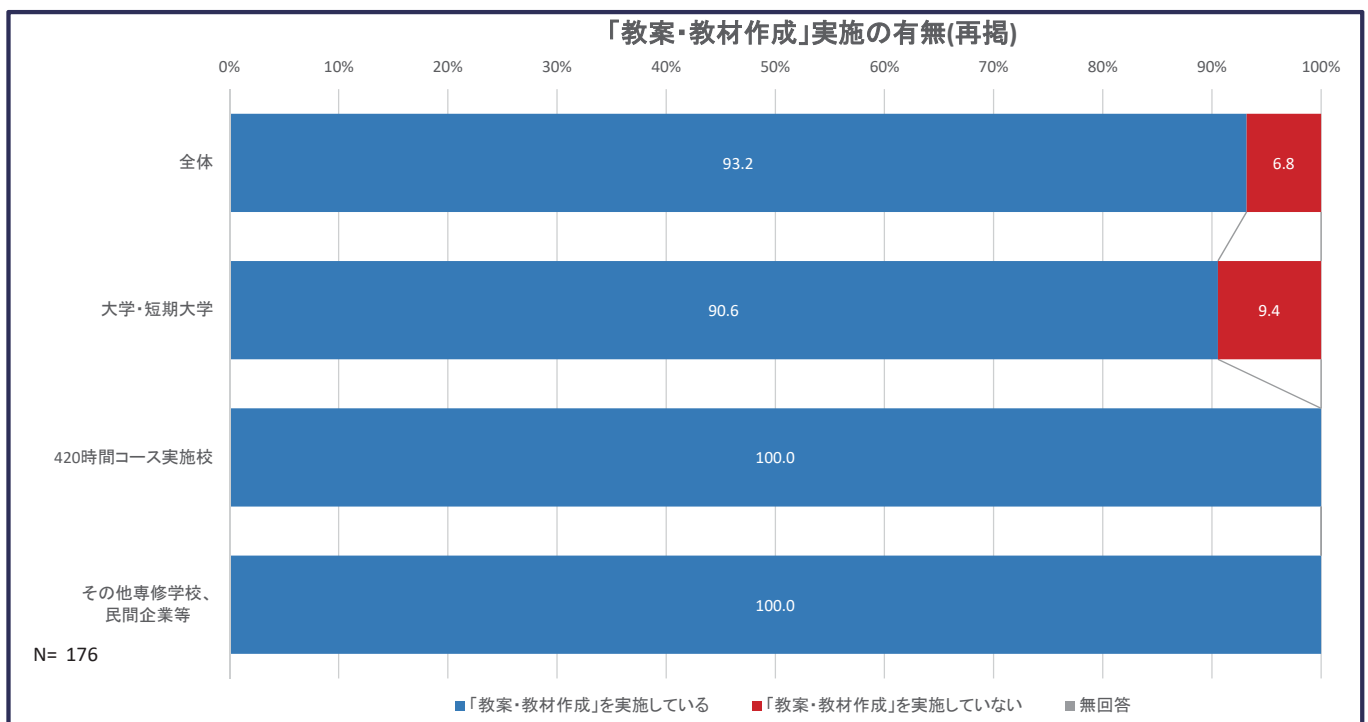
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

23

■ 「教案・教材作成」について 実施の有無(再掲)

* 「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、9割強が教案・教材作成を実施している。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等は全ての機関が実施しているのに対して、大学・短期大学では実施していない機関が1割弱存在する。



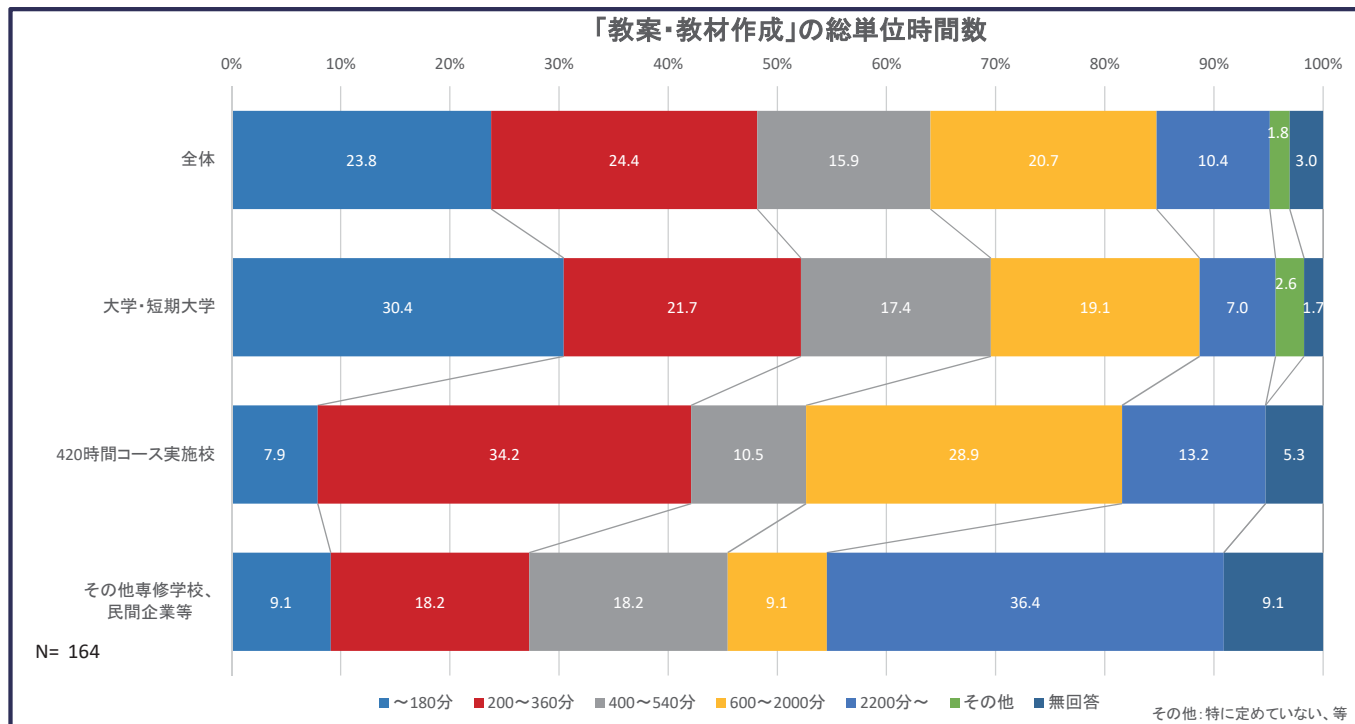
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

24

■ 「教案・教材作成」について 総単位時間数

* 「教案・教材作成」を実施しているとした機関のみの回答

- 教案・教材作成を実施している機関について、総単位時間数を見ると、全体の5割が「360分以下」としている。
- 大学・短期大学では7割弱が「540分以下」としているのに対して、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では4割強が「600分以上」としている。



出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

25

(5) 「模擬授業(実習)」について (概要)

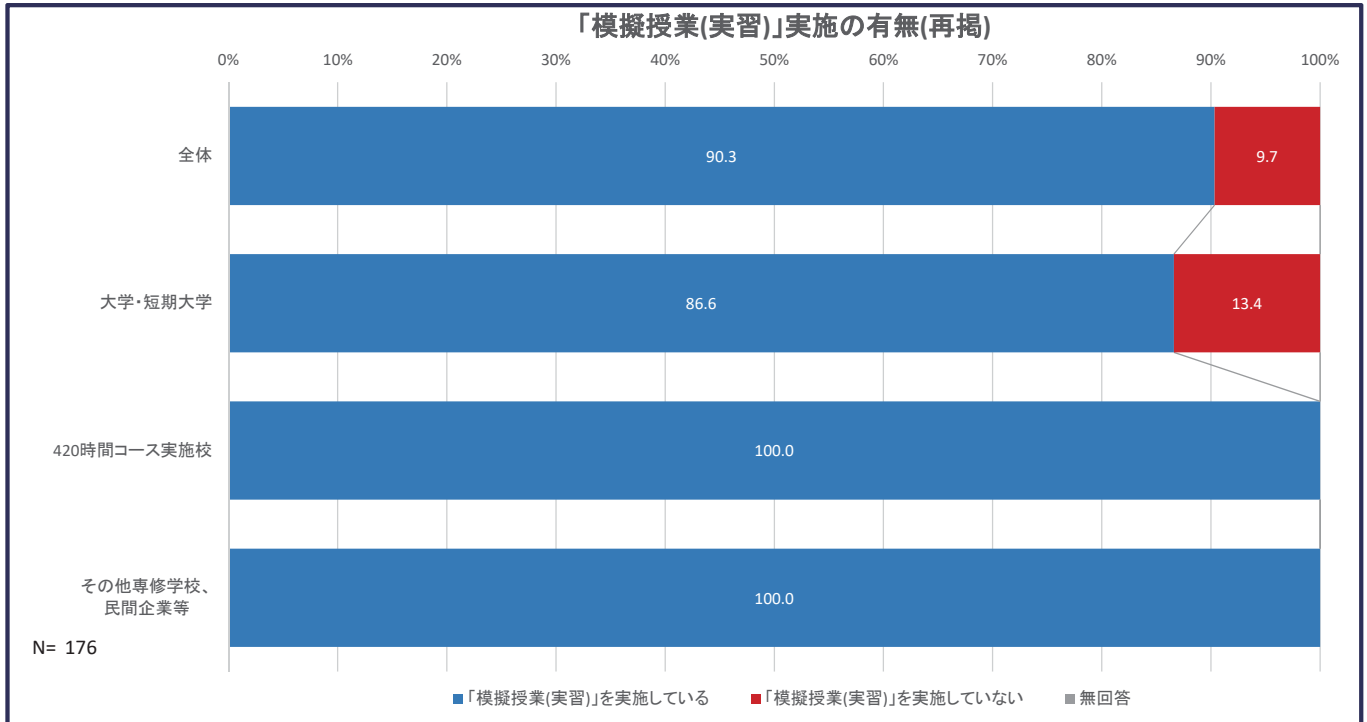
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

26

「模擬授業(実習)」について 実施の有無(再掲)

*「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、9割が模擬授業(実習)を実施している。
- 専修学校・民間企業等は全ての機関が実施しているのに対して、大学・短期大学では実施していない機関が1割強存在する。



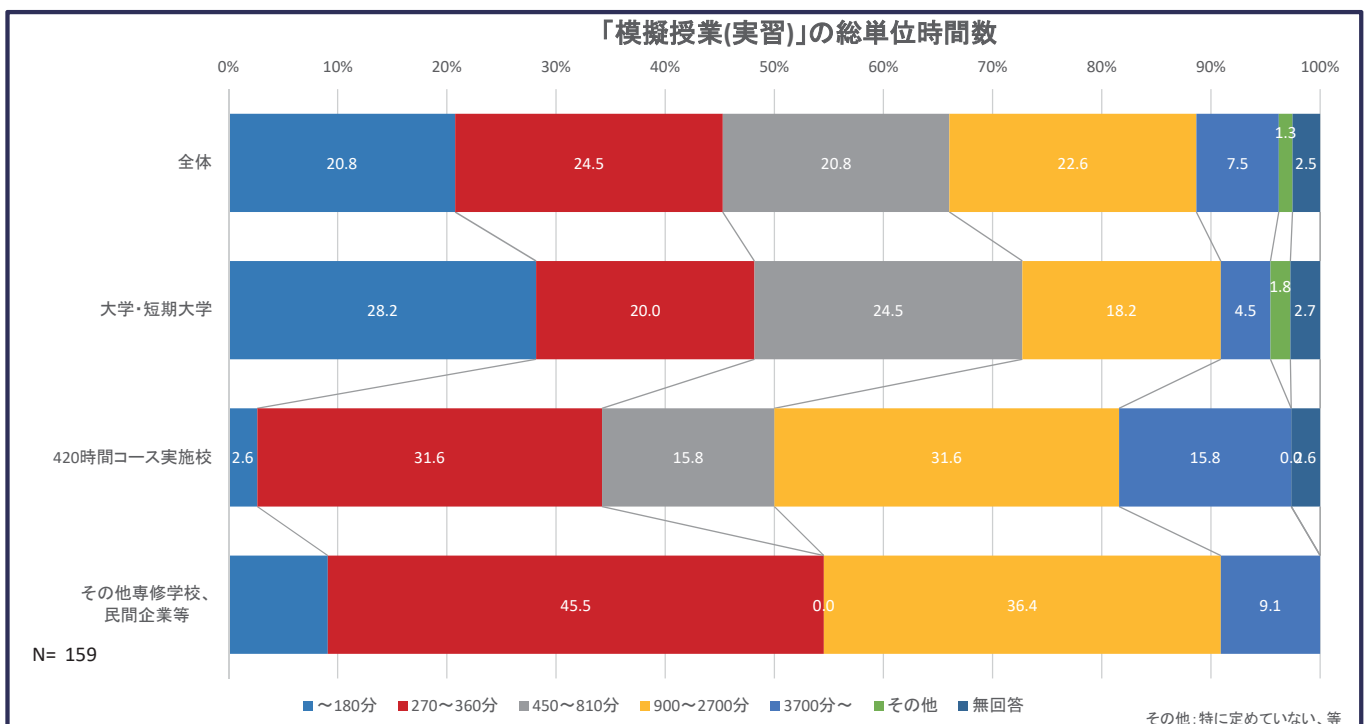
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

27

「模擬授業(実習)」について 総単位時間数

*「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)を実施している期間について、総単位時間数を見ると、全体の6割強が「810分以下」としている。
- 大学・短期大学では7割強が「810分以下」としているのに対して、420時間コース実施校、専修学校・民間企業等では5割程度が「900分以上」としている。



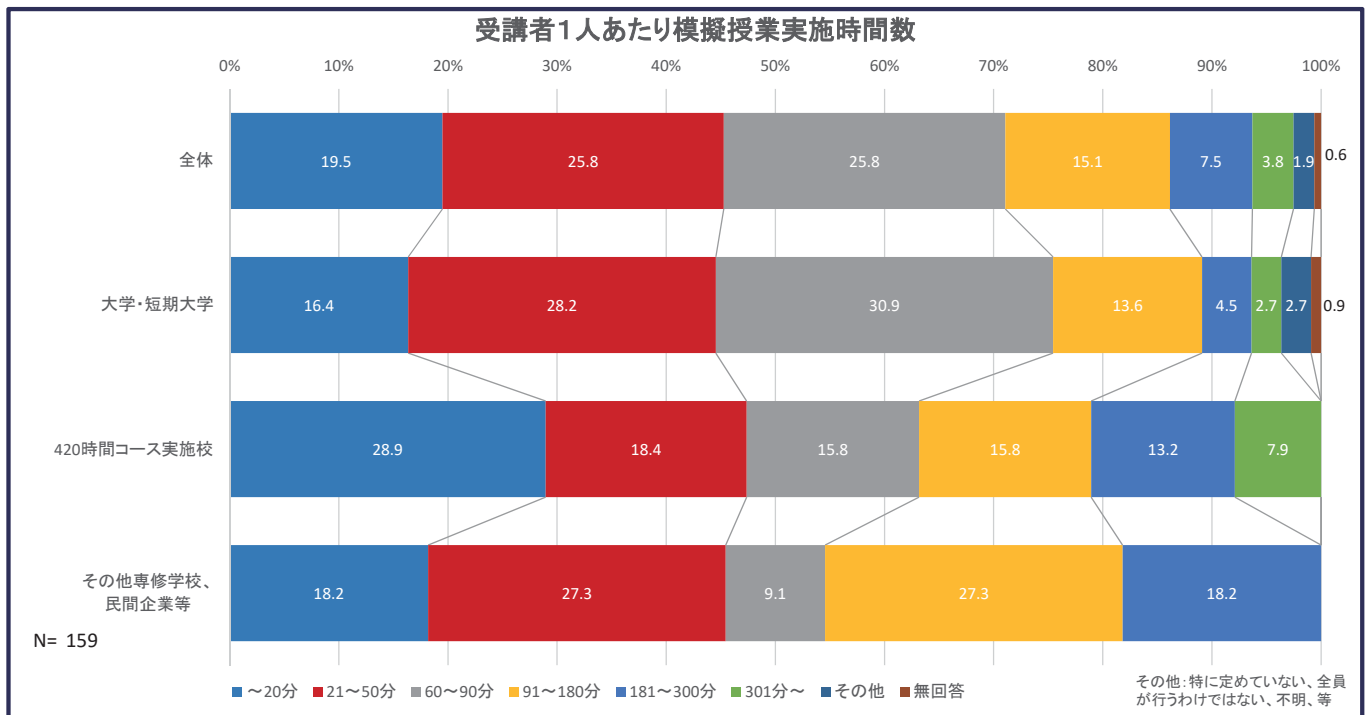
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

28

「模擬授業(実習)」について 受講者1人あたり模擬授業実施時間数

* 「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)を実施している期間について、受講者1人あたり模擬授業実施時間数を見ると、全体の7割強が「90分以下」としている。
- 大学・短期大学では7割強が「90分以下」としているのに対して、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では4割程度が「91分以上」である。



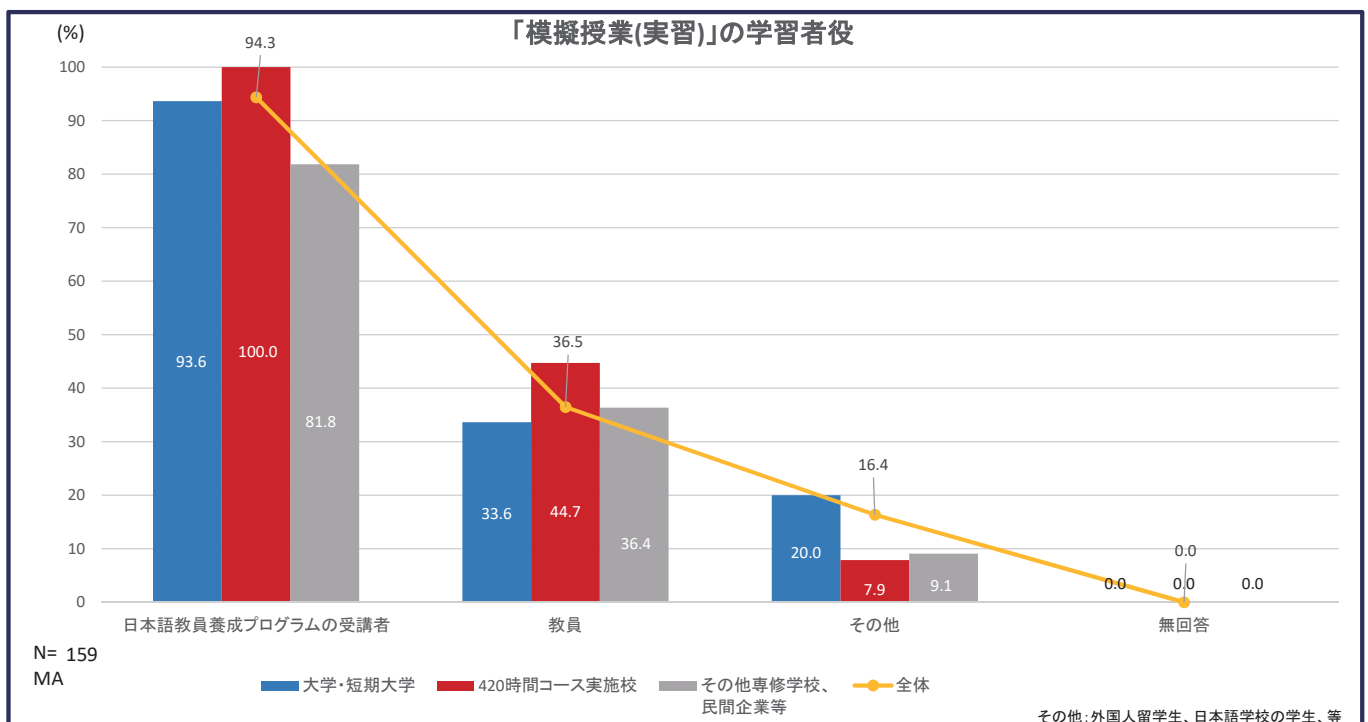
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

29

「模擬授業(実習)」について 「模擬授業(実習)」の学習者役

* 「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)を実施している期間について、模擬授業(実習)の学習者役を見ると、全体の9割強が「日本語教員養成プログラムの受講者」としている。
- 420時間コース実施校はそれ以外に比べて「教員」とする割合が若干高い。



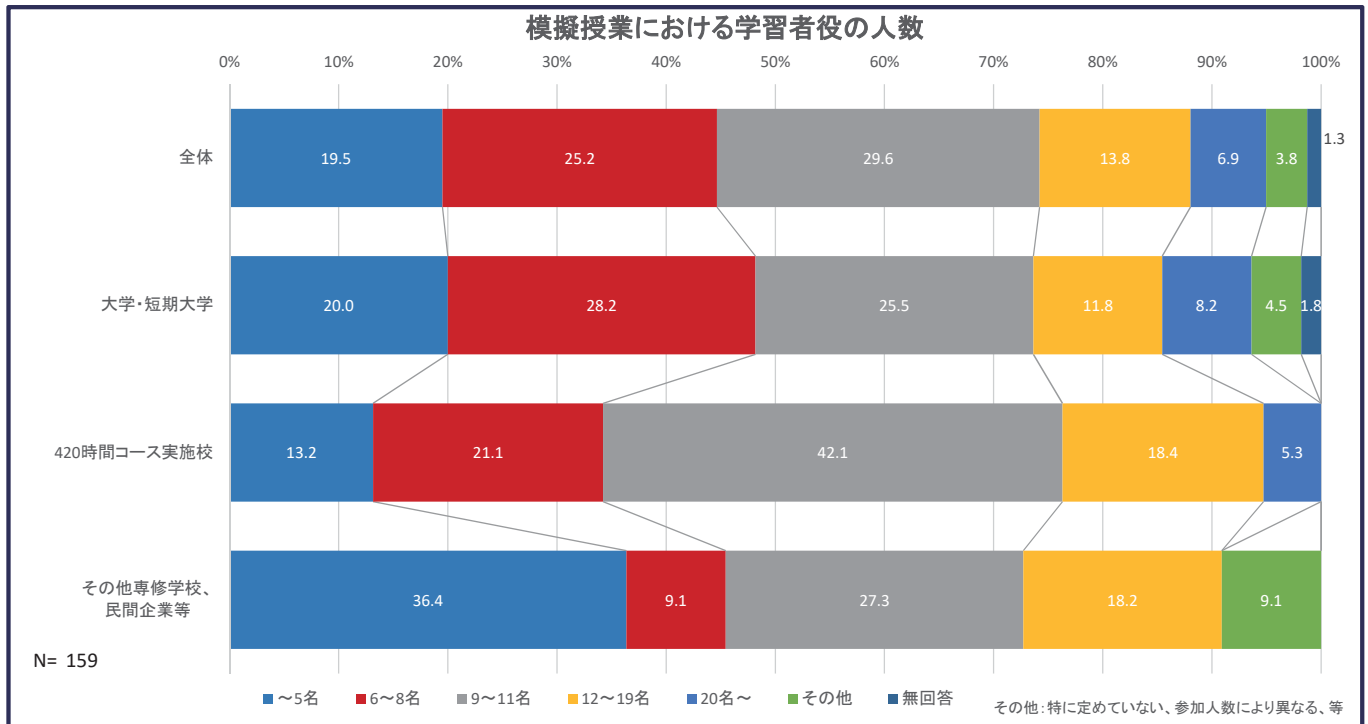
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

30

「模擬授業(実習)」について 模擬授業における学習者役の人数

*「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)を実施している機関について、模擬授業における学習者役の人数を見ると、全体の4割強が「8名以下」としている。
- 大学・短期大学では5割弱が「8名以下」としているのに対して、420時間コース実施校では7割弱が「9名以上」である。



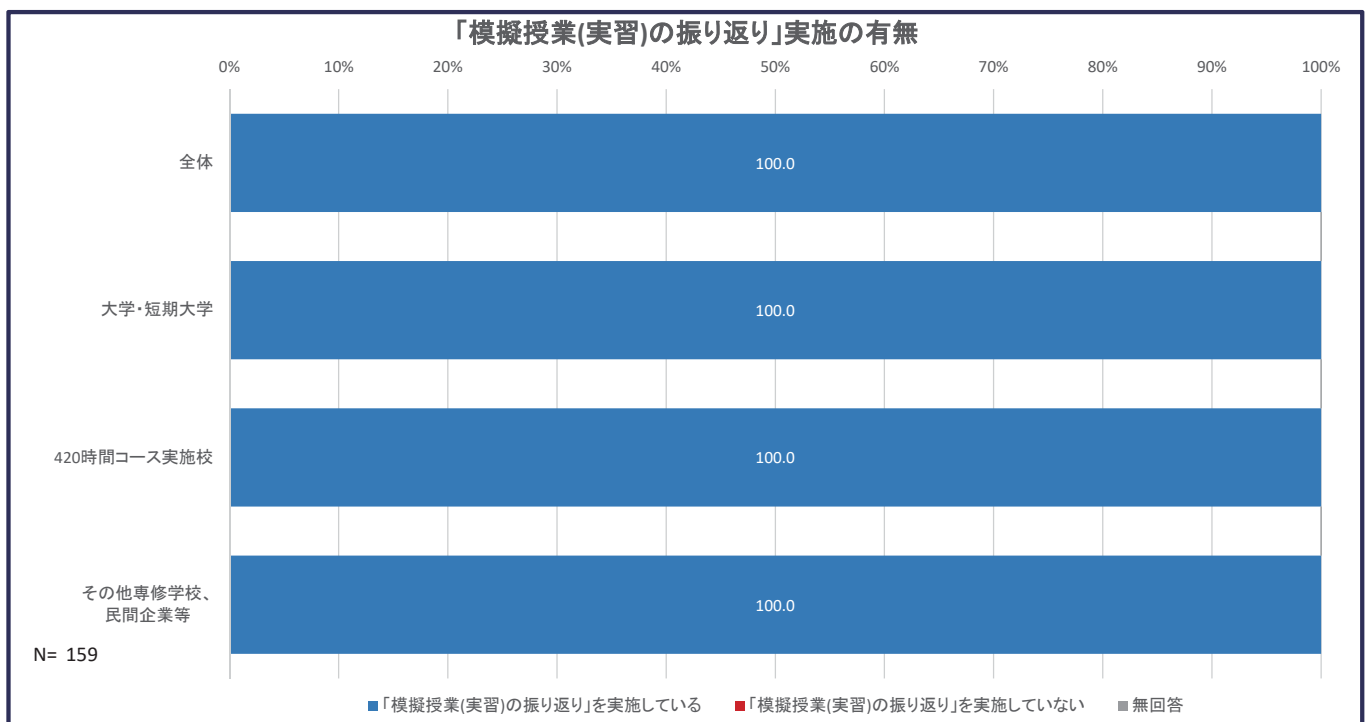
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

31

「模擬授業(実習)」について 「振り返り」実施の有無

*「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)を実施している機関の内、全ての機関が模擬授業(実習)の振り返りを実施している。



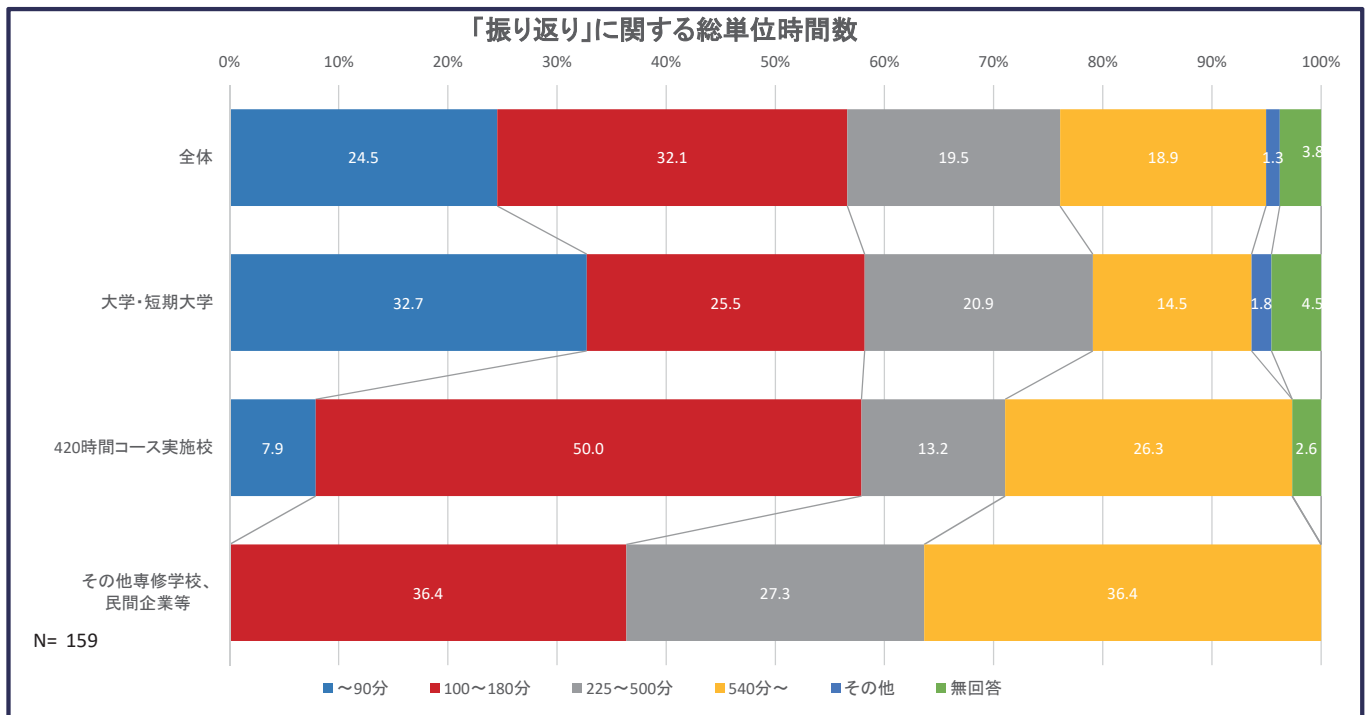
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

32

「模擬授業(実習)」について 「振り返り」に関する総単位時間数

* 「模擬授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)とその「振り返り」を実施している機関について、振り返りに関する総単位時間数を見ると、全体の6割弱が「180分以下」としている。
- 大学・短期大学では3割が「90分以下」としているのに対して、420時間コース実施校では9割、その他専修学校・民間企業等では全てが「100分以上」である。



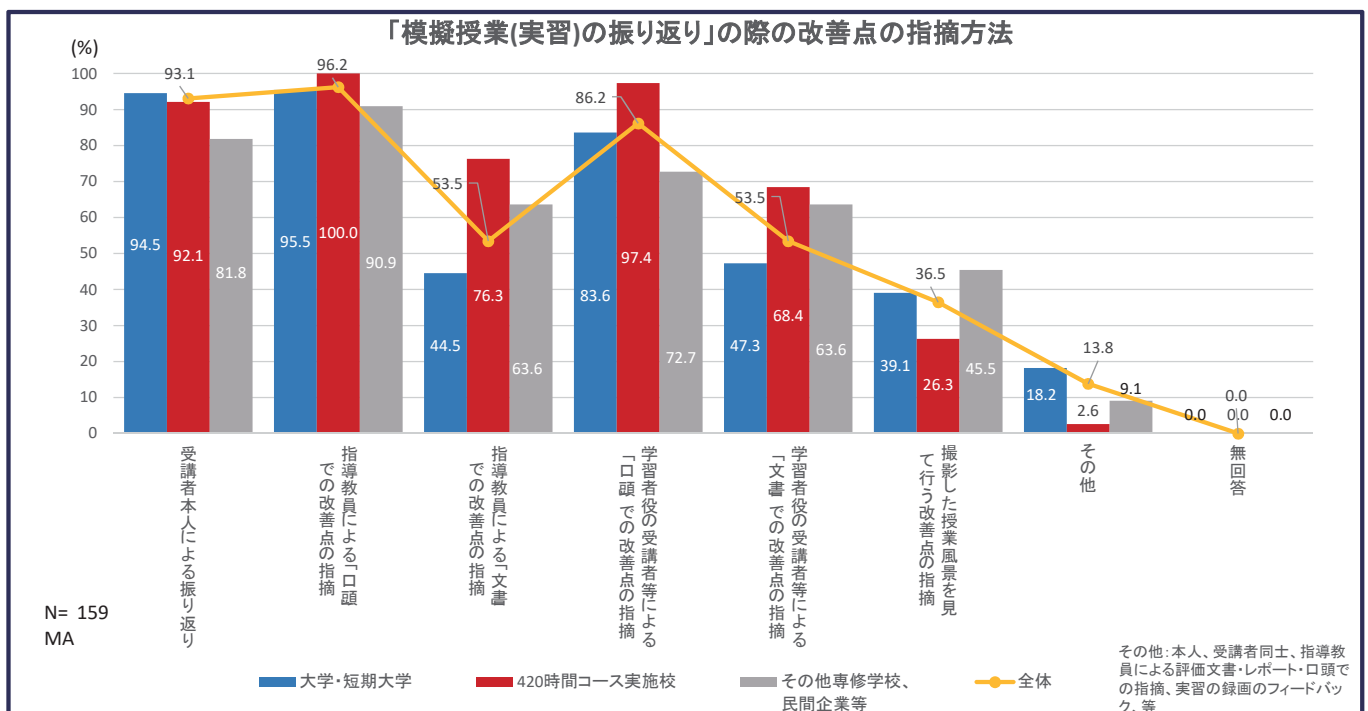
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

33

「模擬授業(実習)」について 「振り返り」の際の改善点の指摘方法

* 「模擬授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)とその「振り返り」を実施している機関について、「振り返り」の際の改善点の指摘方法を見ると、全体の9割が「受講者本人による振り返り」「指導教員による「口頭」での改善点の指摘」を挙げている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等は大学・短期大学に比べて、「指導教員による「文書」での改善点の指摘」や「学習者役を受講者等による「文書」での改善点の指摘」を挙げる割合が相対的に高い。



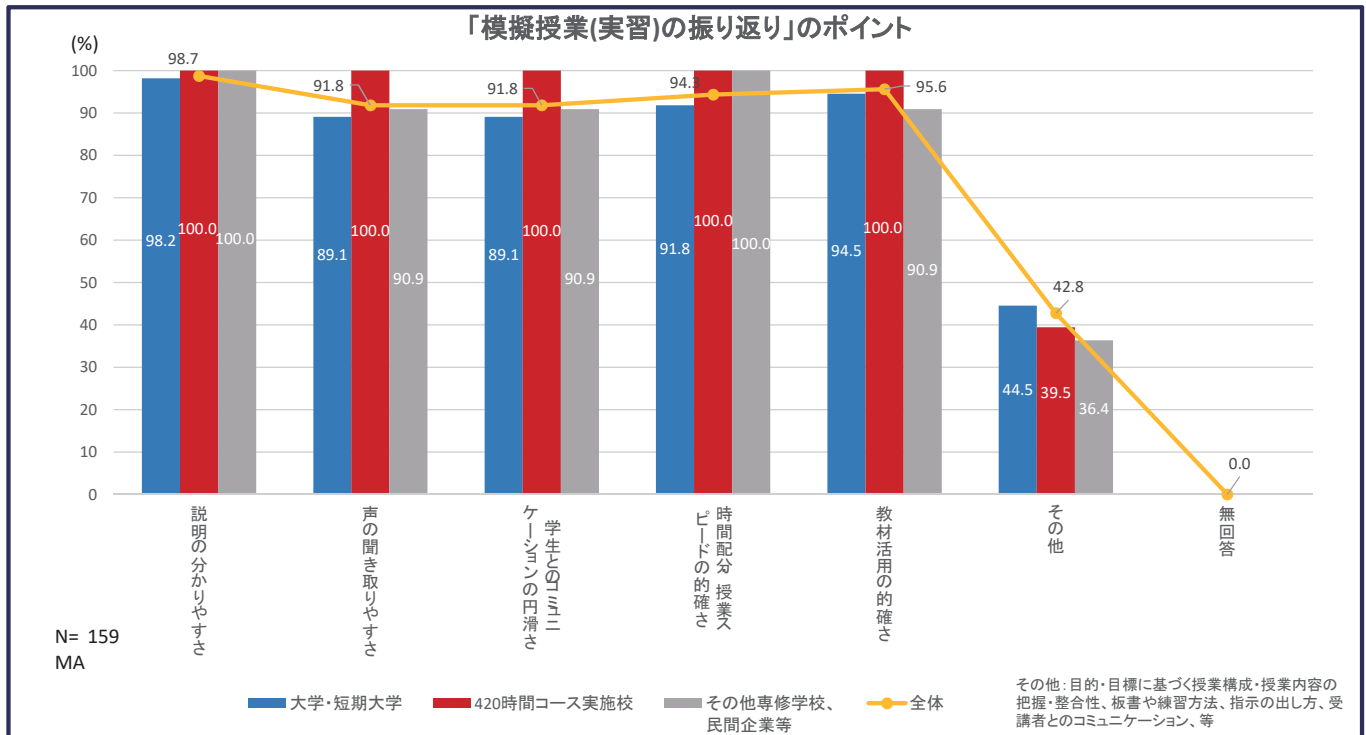
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

34

■ 「模擬授業(実習)」について 「振り返り」のポイント

* 「模擬授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 模擬授業(実習)とその「振り返り」を実施している機関について、振り返りのポイントを見ると、各項目とも9割以上の指摘率である。
- 420時間コース実施校では、「声の聞き取りやすさ」「学生とのコミュニケーションの円滑さ」を挙げる割合が若干高い。



出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

35

(6) 「授業(実習)」について (概要)

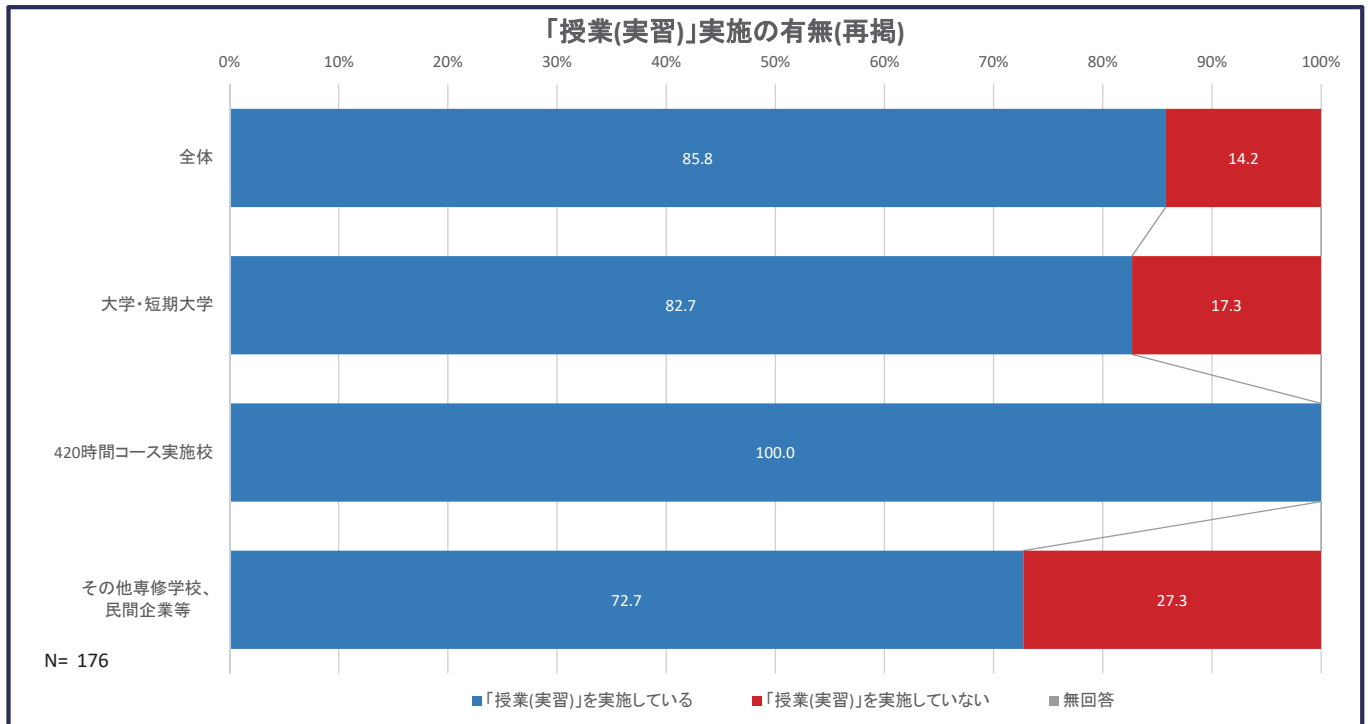
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

36

「授業(実習)」について 実施の有無(再掲)

* 「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、9割弱は授業(実習)を実施している。
- 大学・短期大学では2割、その他専修学校・民間企業等では3割が実施していない。



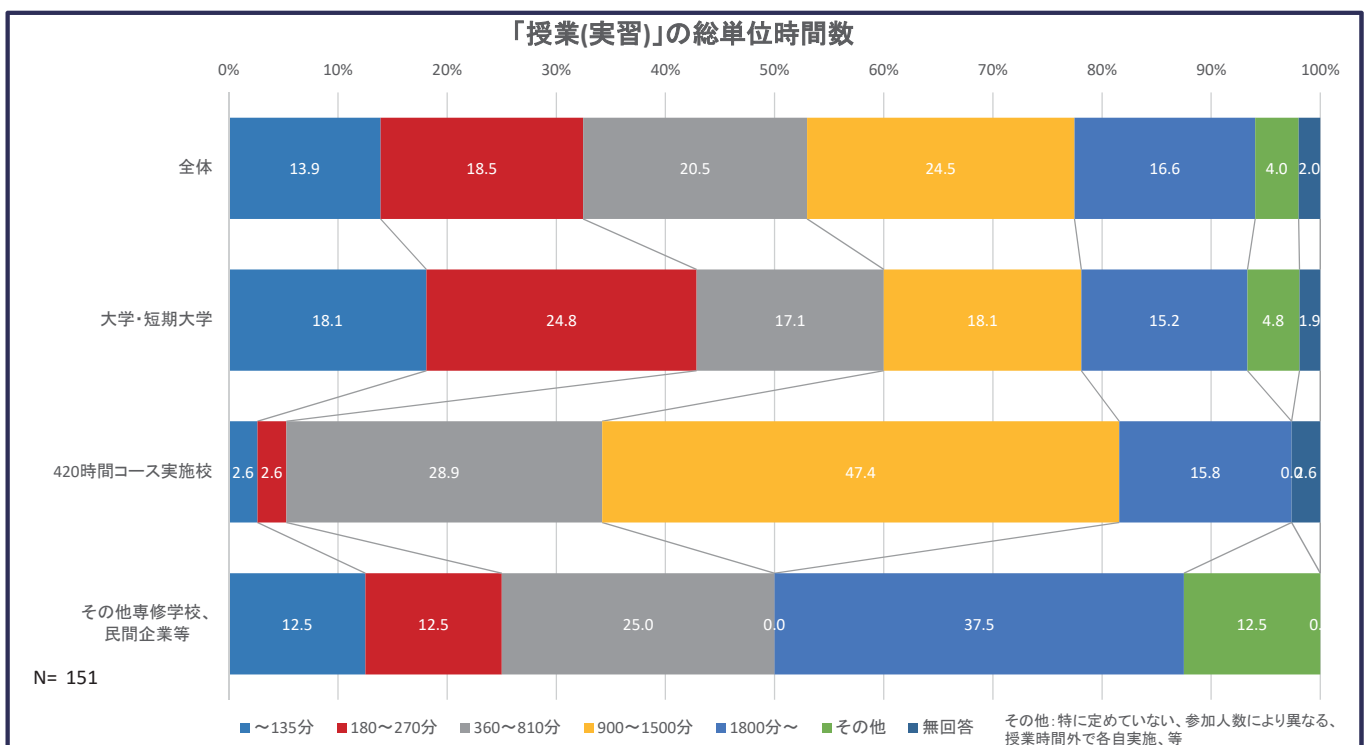
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

37

「授業(実習)」について 「授業(実習)」の総単位時間数

* 「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、授業(実習)の総単位時間数を見ると、全体の5割強が「810分以下」としている。
- 大学・短期大学では6割が「810分以下」としているのに対して、420時間コース実施校では6割が「900分以上」としている。



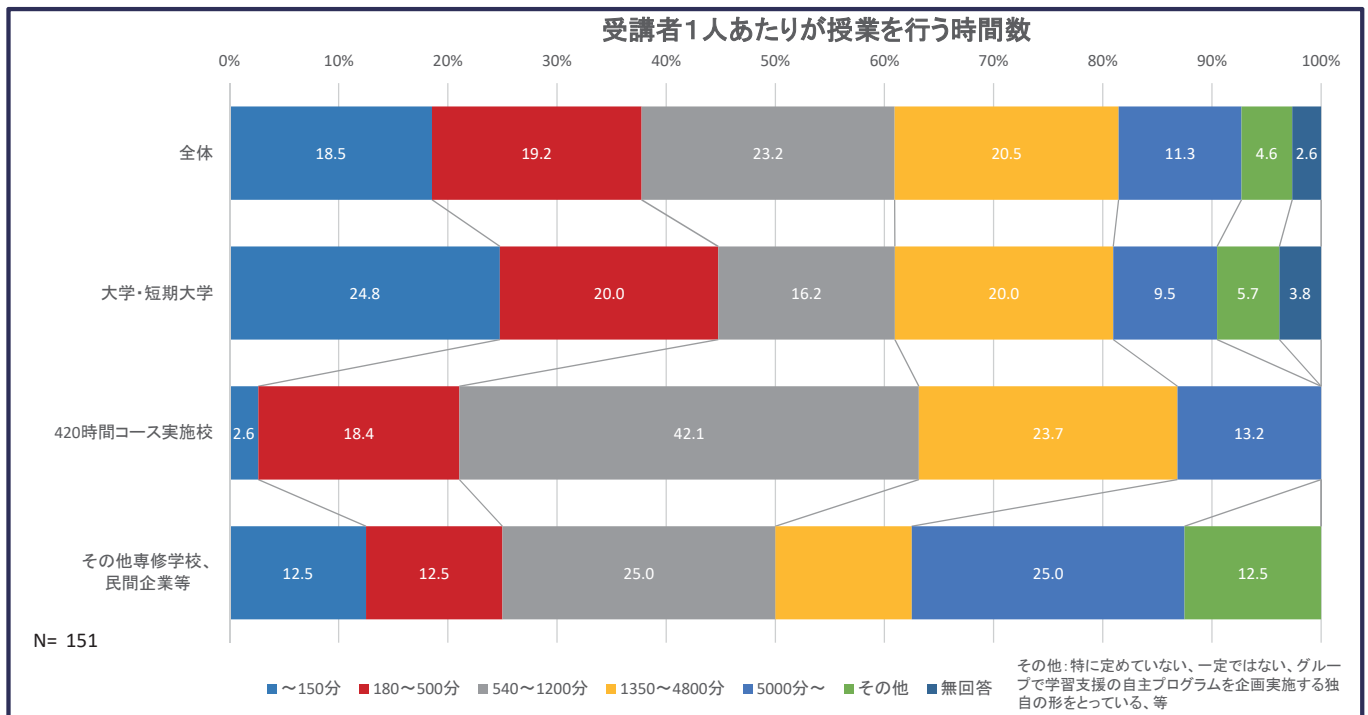
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

38

「授業(実習)」について 受講者1人あたり授業実施時間数

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、受講者1人あたり授業実施時間数を見ると、全体の6割が「1200分以下」としている。
- 大学・短期大学では4割強が「500分以下」としているのに対して、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では6割以上が「540分以上」としている。



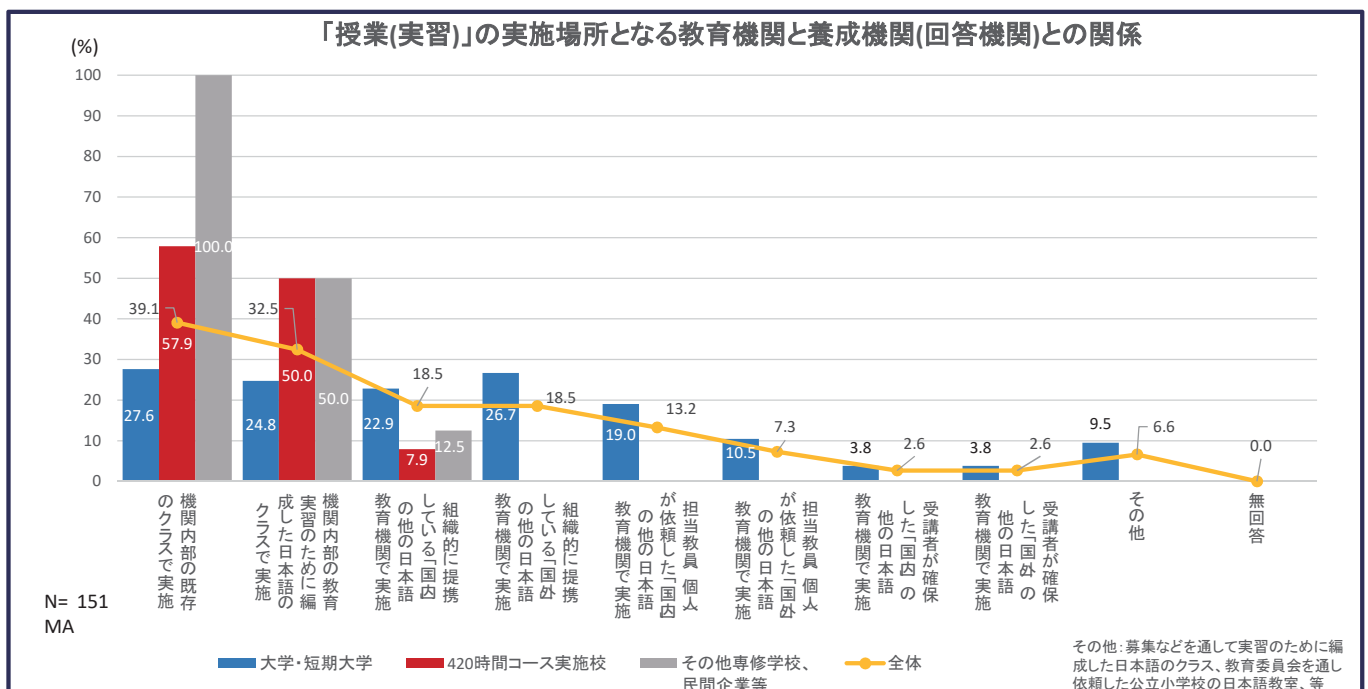
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

39

「授業(実習)」について 「授業(実習)」の実施場所となる教育機関と養成機関(回答機関)との関係

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、授業(実習)の実施場所となる教育機関と養成機関(回答機関)との関係を見ると、全体の3割以上が「機関内部の既存のクラスで実施」「機関内部の教育実習のために編成した日本語のクラスで実施」としている。(両者は特に、専修学校・民間企業等で多い。)
- 「組織的に提携している「国外」の他の日本語教育機関」「担当教員(個人)が依頼した「国内」の他の日本語教育機関」「担当教員(個人)が依頼した「国外」の他の日本語教育機関」は大学・短期大学のみで実施されている。



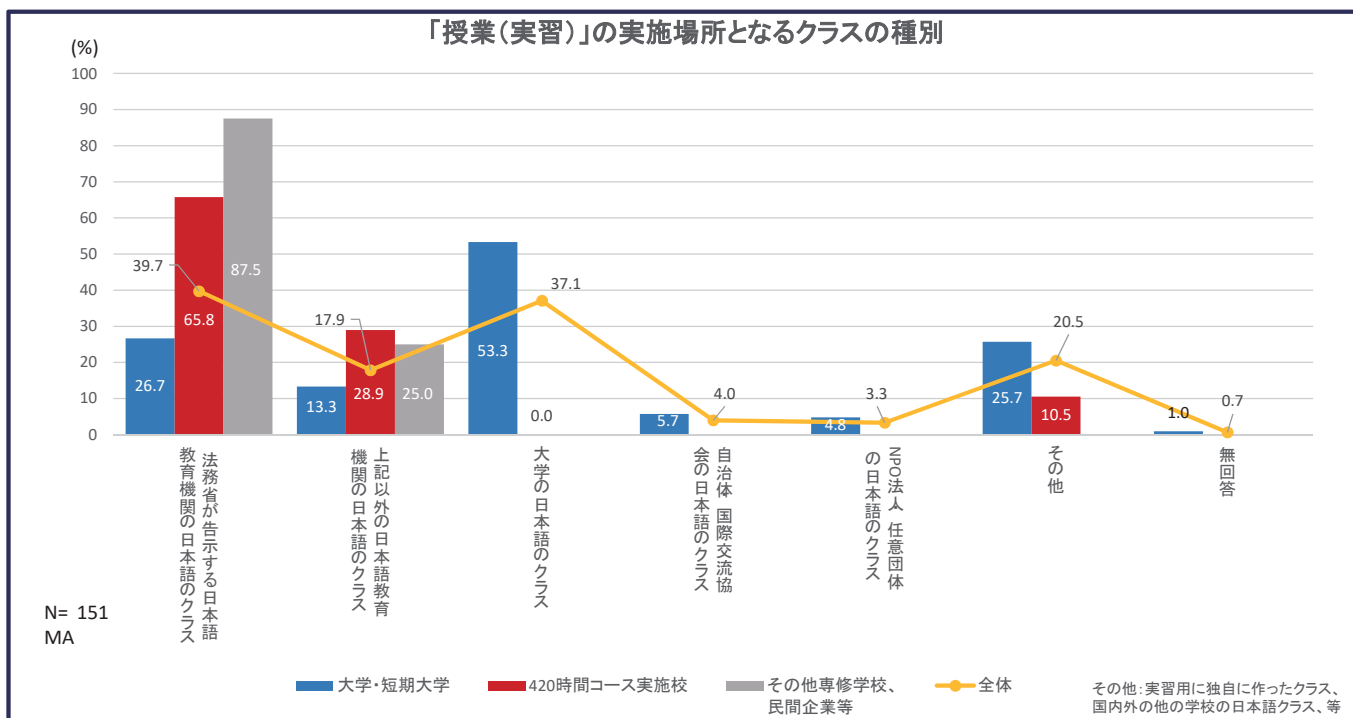
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

40

「授業(実習)」について 「授業(実習)」の実施場所となるクラスの種別

* 「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、授業(実習)の実施場所となるクラスの種別を見ると、全体の4割が「法務省が告示する日本語教育機関の日本語のクラス」「大学の日本語のクラス」を挙げている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では「法務省が告示する日本語教育機関の日本語のクラス」「上記以外の日本語教育機関の日本語のクラス」を挙げる割合が相対的に高い。



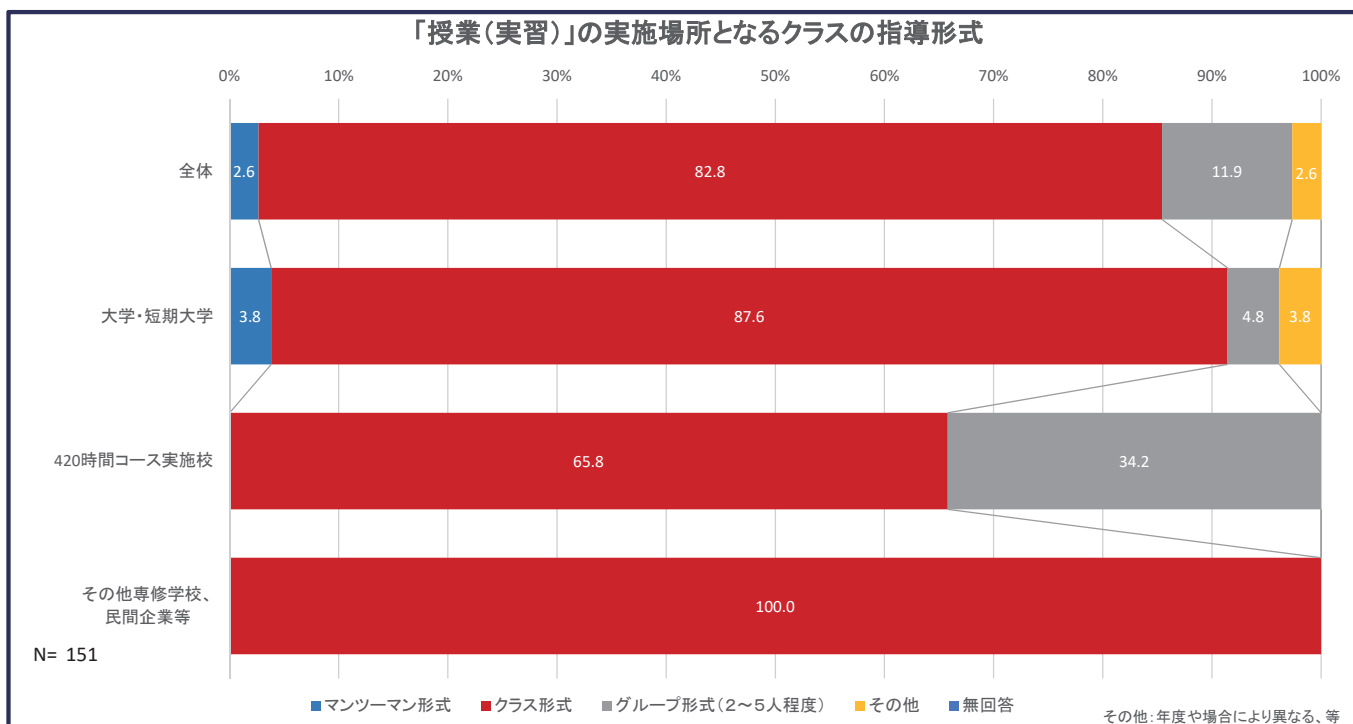
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

41

「授業(実習)」について 「授業(実習)」の実施場所となるクラスの指導形式

* 「模擬授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関の内、全体の8割はクラス形式で実施している。
- 大学・短期大学の9割、その他専修学校・民間企業等の全てがクラス形式で実施している。
- 420時間コース実施校では、3割強がグループ形式(2~5人程度)で実施している。



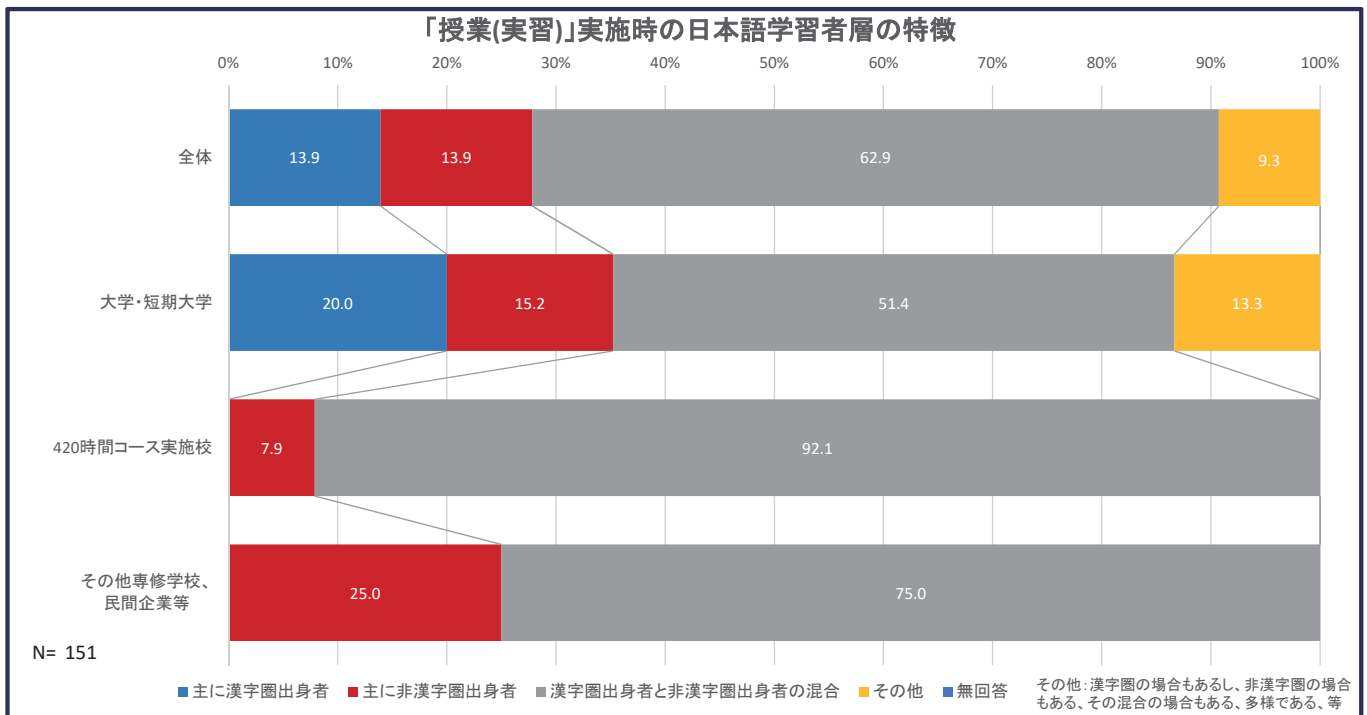
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

42

「授業(実習)」について 「授業(実習)」実施時の日本語学習者層の特徴

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、授業(実習)実施時の日本語学習者層の特徴を見ると、全体の6割が「漢字圏出身者と非漢字圏出身者の混合」としている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等は大学・短期大学に比べて、「漢字圏出身者と非漢字圏出身者の混合」とする割合が高い。
- 大学・短期大学では、「主に漢字圏出身者」「主に非漢字圏出身者」とする割合がそれぞれ2割程度存在する。



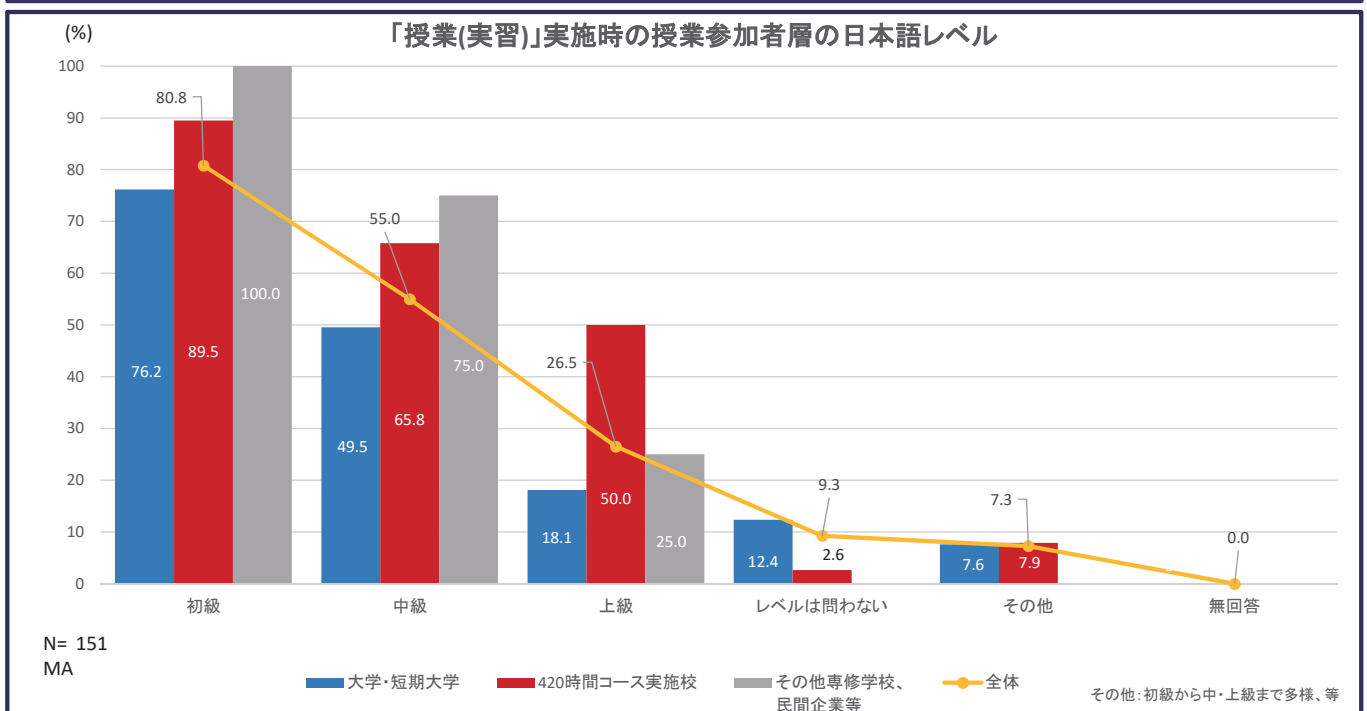
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

43

「授業(実習)」について 「授業(実習)」実施時の授業参加者層の日本語レベル

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、授業(実習)実施時の授業参加者層の日本語レベルを見ると、「初級」とする割合が8割、「中級」とする割合が5割強、「上級」とする割合が3割弱となっている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等は、「初級」「中級」とする割合が相対的に高い。また、420時間コース実施校は「上級」とする割合が総体的に高い。



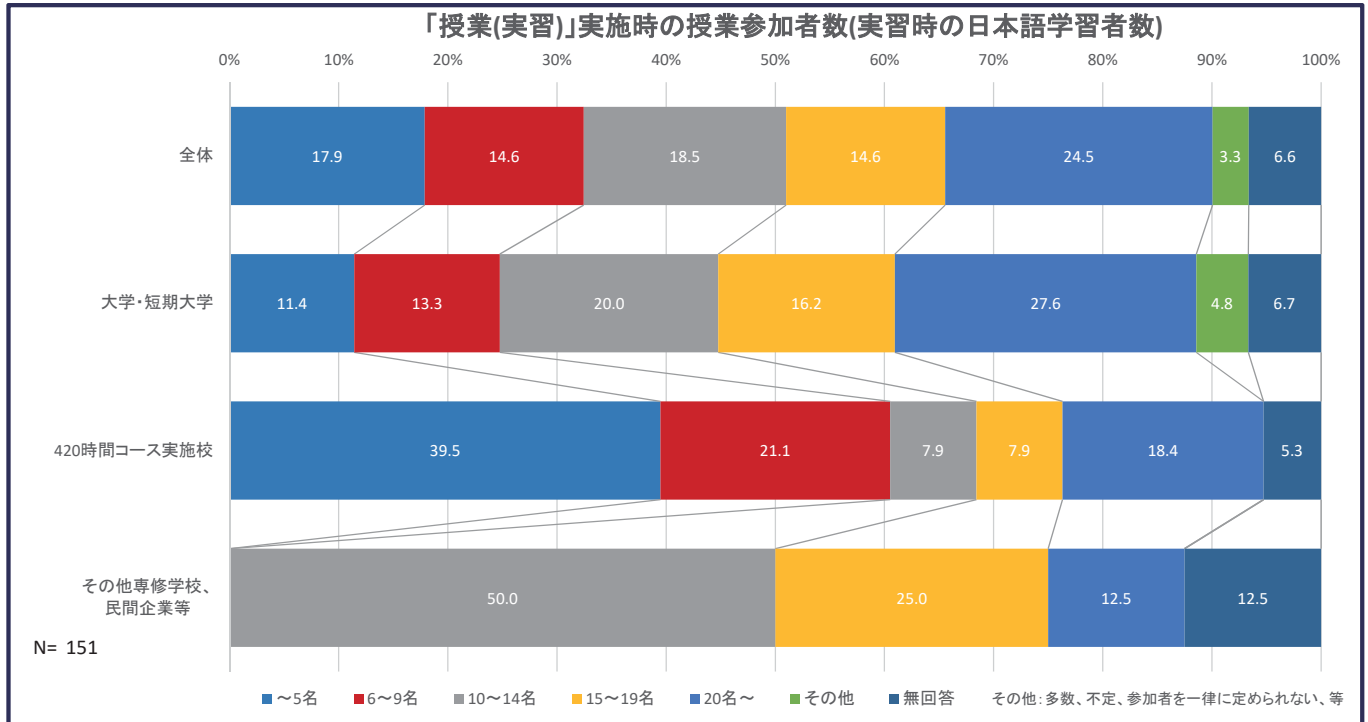
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

44

「授業(実習)」について 「授業(実習)」実施時の日本語学習者数

* 「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、実習時の日本語学習者数を見ると、全体の5割が「14名以下」としている。
- 大学・短期大学、その他専修学校・民間企業等では4割強が「15名以上」としているのに対して、420時間コース実施校では7割弱が「14名以下」としている。



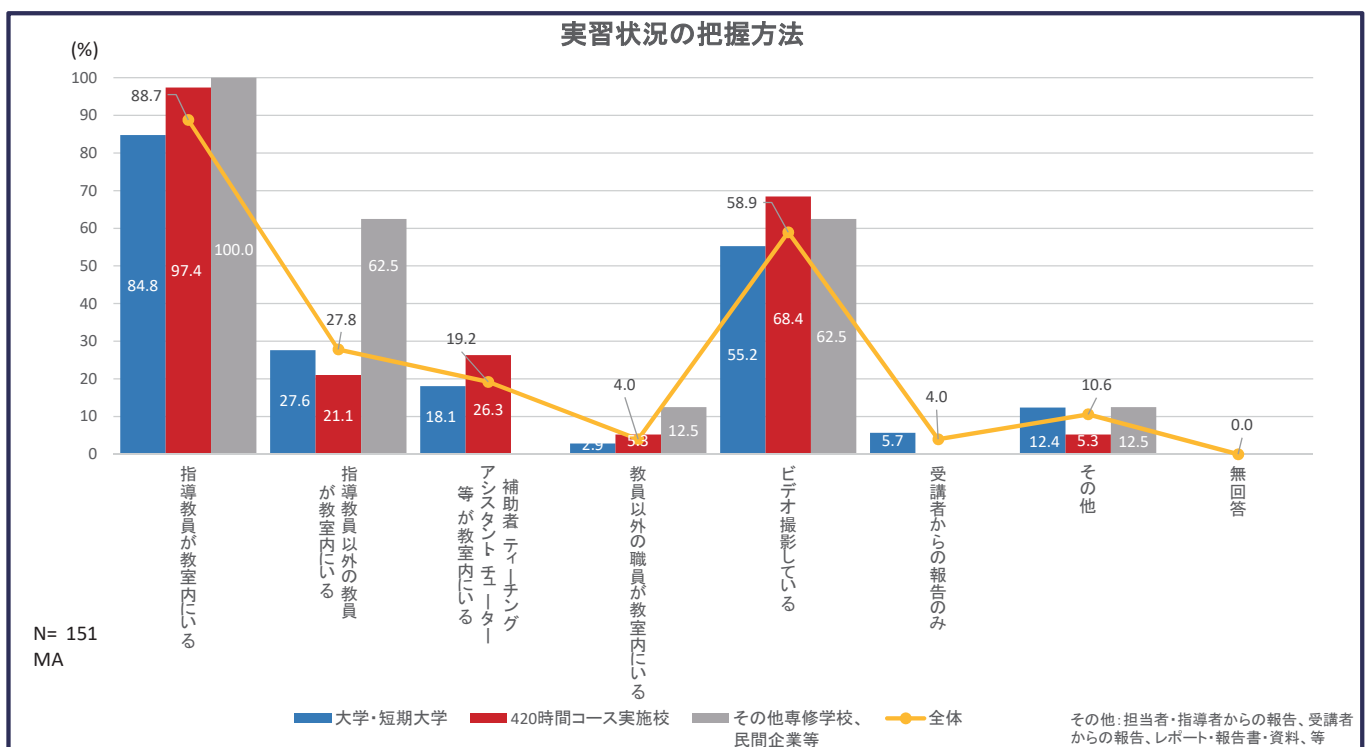
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

45

「授業(実習)」について 「授業(実習)」実施時の実習状況の把握方法

* 「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、「授業(実習)」実施時の実習状況の把握方法を見ると、全体の9割が「指導教員が教室内にいる」、6割が「ビデオ撮影している」を挙げている。
- その他専修学校・民間企業等は、「指導教員以外の教員が教室内にいる」を挙げる割合が相対的に高い。



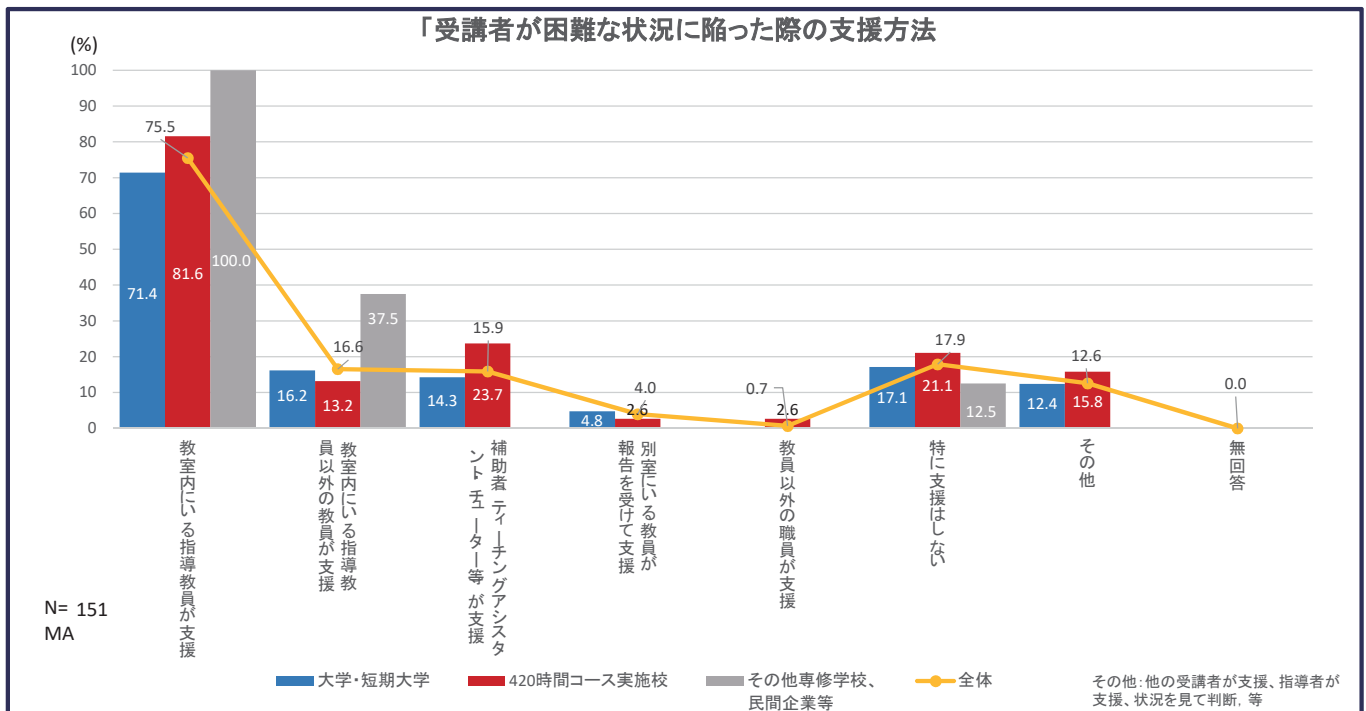
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

46

「授業(実習)」について 実習者が困難な状況に陥った際の支援方法

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、実習者が困難な状況に陥った際の支援方法を見ると、全体の8割弱が「教室にいる指導教員が支援」を挙げている。
- その他専修学校・民間企業等では、「教室にいる指導教員が支援」「教室にいる指導教員以外の教員が支援」を挙げる割合が相対的に高い。



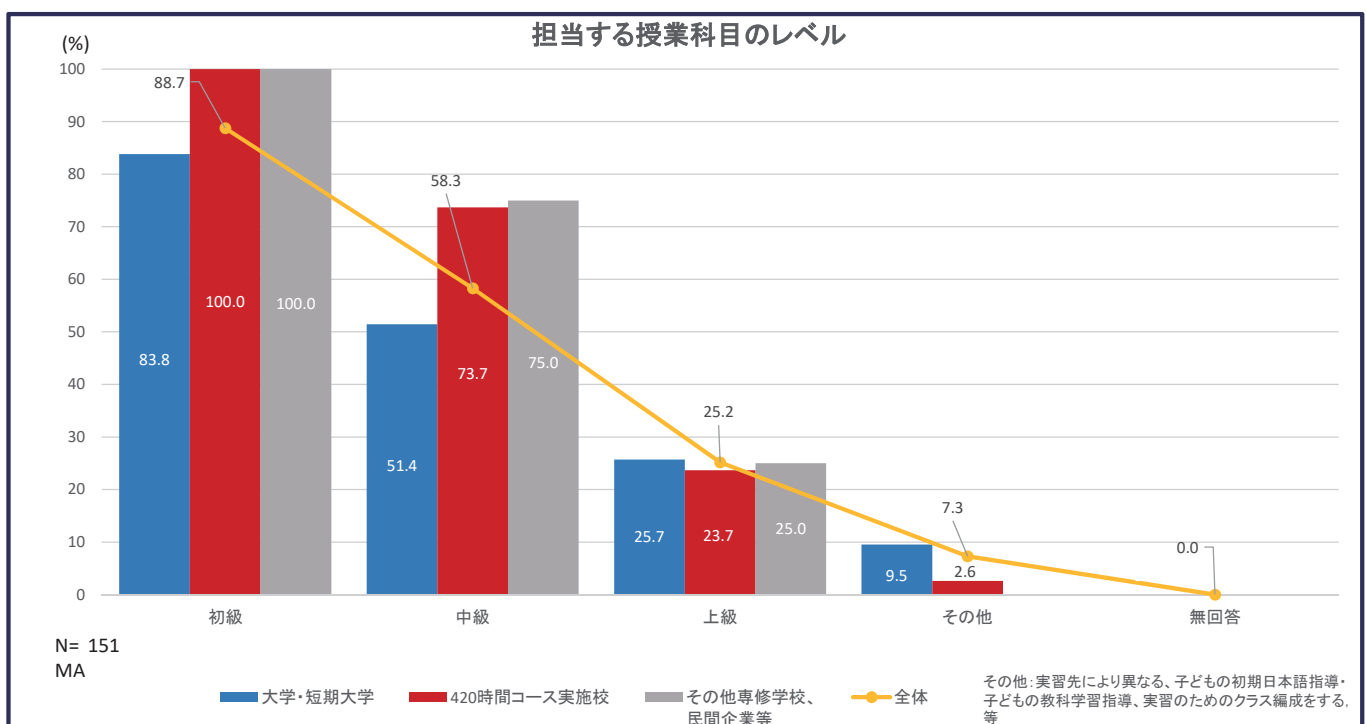
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

47

「授業(実習)」について 実習者が担当する授業科目のレベル

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、実習者が担当する授業科目のレベルを見ると、「初級」とする割合が9割、「中級」とする割合が6割、「上級」とする割合が2割強となっている。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では、「初級」「中級」とする割合が相対的に高い。



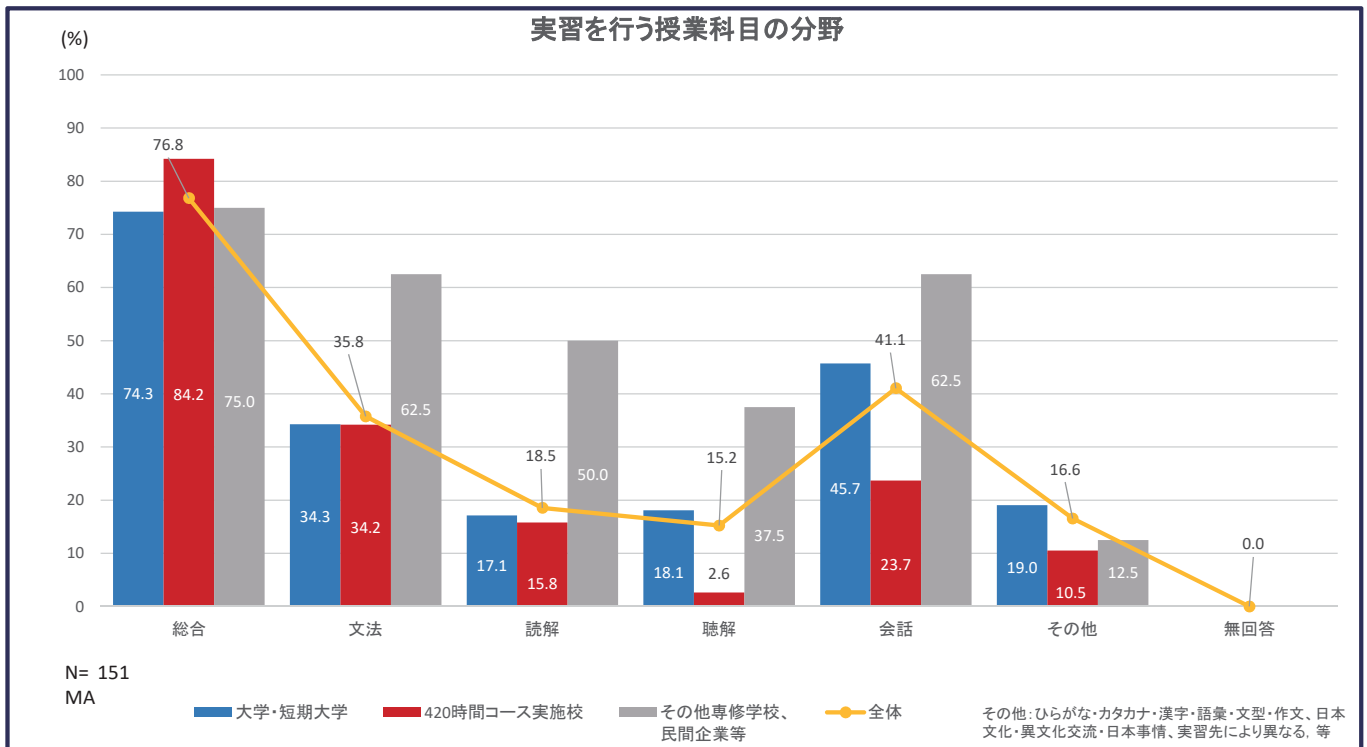
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

48

「授業(実習)」について 実習を行う授業科目の分野

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、実習を行う授業科目の分野を見ると、全体の8割弱が「総合」を挙げており、4割が「会話」を挙げている。
- その他専修学校・民間企業等では、「文法」「読解」「聴解」「会話」を挙げる割合が相対的に高い。



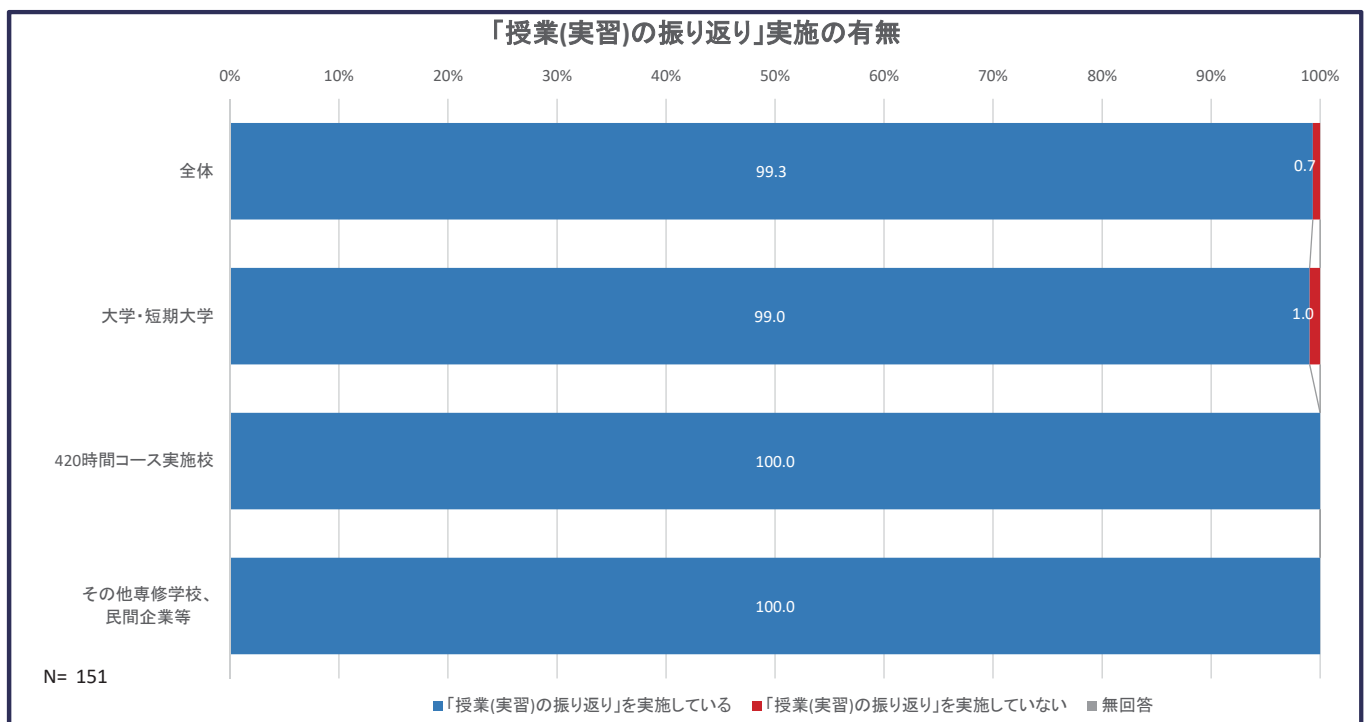
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

49

「授業(実習)」について 「振り返り」実施の有無

*「授業(実習)」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関の内、ほぼ全ての機関が「授業(実習)の振り返り」を実施している。
- 設立機関種別に見ても、傾向は同じである。



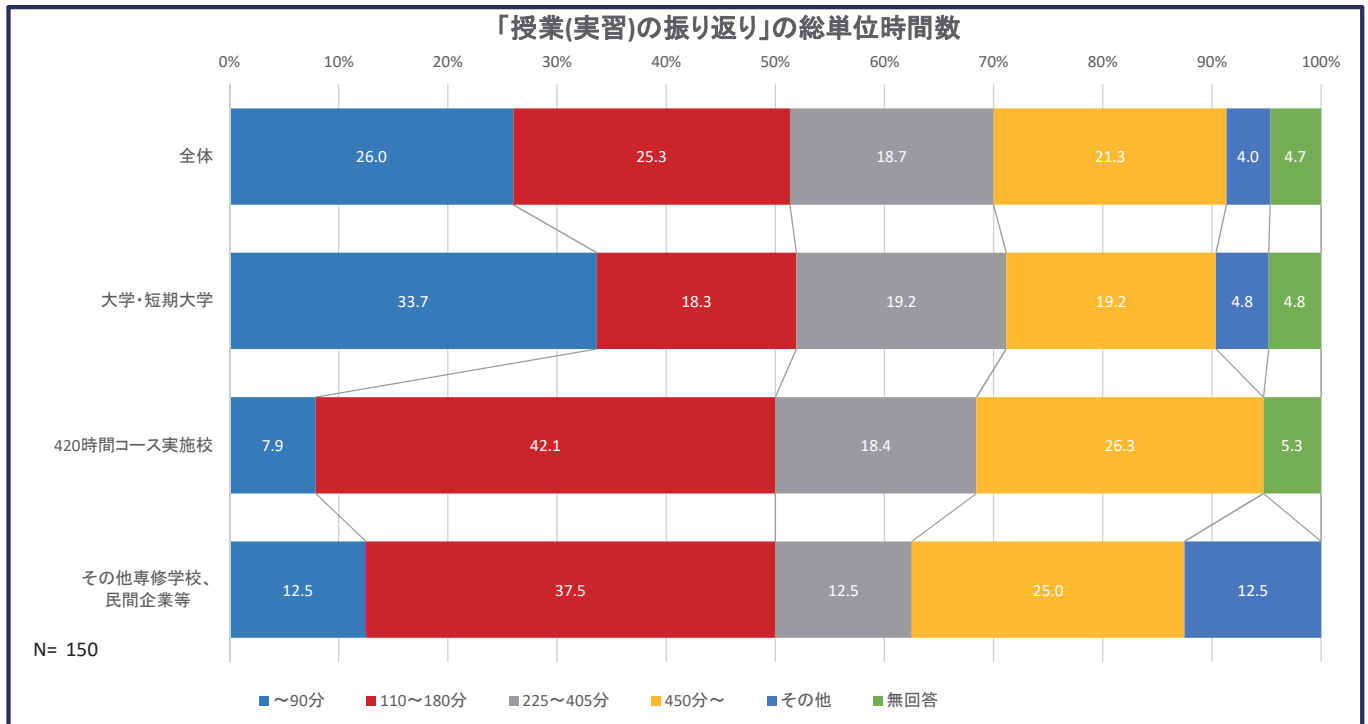
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

50

「授業(実習)」について 「振り返り」の総単位時間数

*「授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、振り返りの総単位時間数を見ると、全体の5割強が「180分以下」としている。
- 大学・短期大学では3割強が「90分以下」としているのに対して、420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等では8割以上が「110分以上」としている。



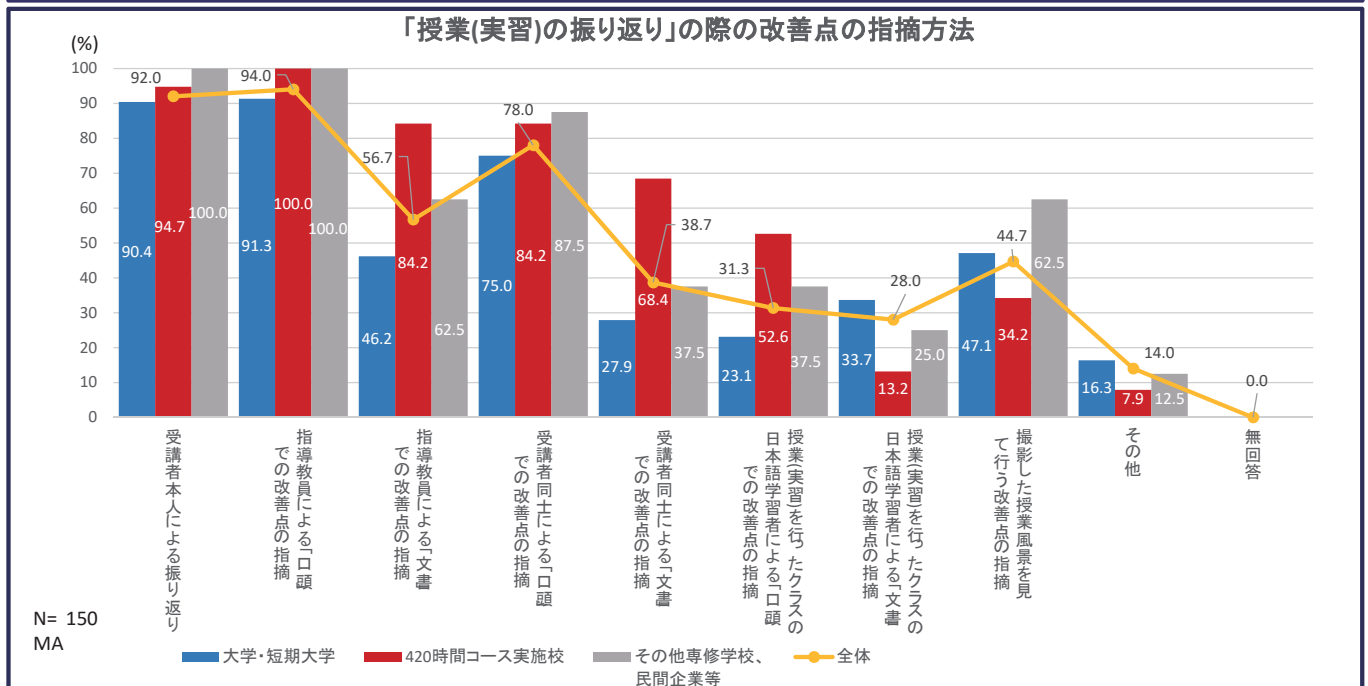
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

51

「授業(実習)」について 「振り返り」の際の改善点の指摘方法

*「授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、振り返りの際の改善点の指摘方法を見ると、全体の9割以上が「受講者本人による振り返り」「指導教員による「口頭」での改善点の指摘」を挙げている。
- 420時間コース実施校は、「指導教員による「文書」での改善点の指摘」「受講者同士による「文書」での改善点の指摘」「授業(実習)を行ったクラスの日本語学習者による「口頭」での改善点の指摘」を挙げる割合が相対的に高い。その他専修学校・民間企業等は、「撮影した授業風景を見て行う改善点の指摘」を挙げる割合が相対的に高い。



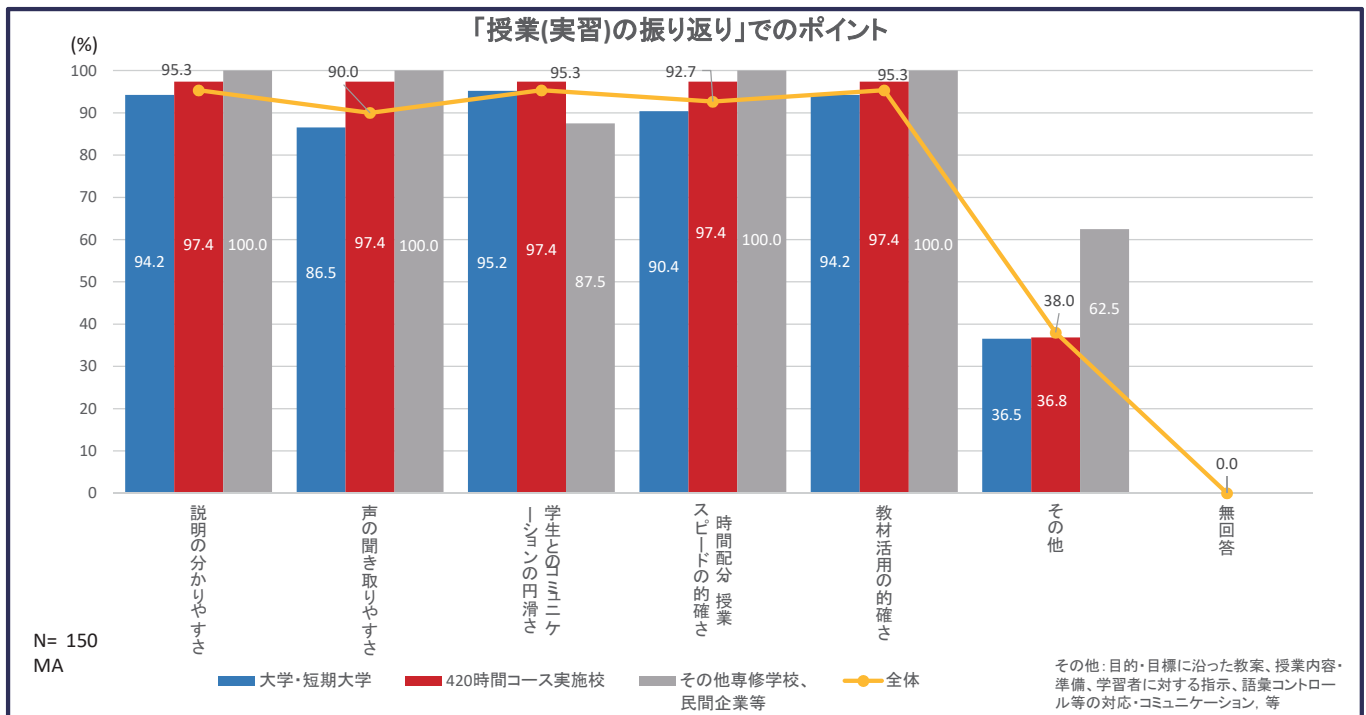
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

52

■ 「授業(実習)」について 「振り返り」のポイント

* 「授業(実習)」を実施していて、「振り返り」を実施しているとした機関のみの回答

- 授業(実習)を実施している機関について、振り返りのポイントを見ると、各項目とも9割以上の指摘率である。
- 420時間コース実施校、その他専修学校・民間企業等は「声の聞き取りやすさ」「時間配分・授業スピードの的確さ」を挙げる割合が若干高く、大学・短期大学、420時間コース実施校は「学生とのコミュニケーションの円滑さ」を挙げる割合が若干高い。



出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

53

(7) 「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」について (概要)

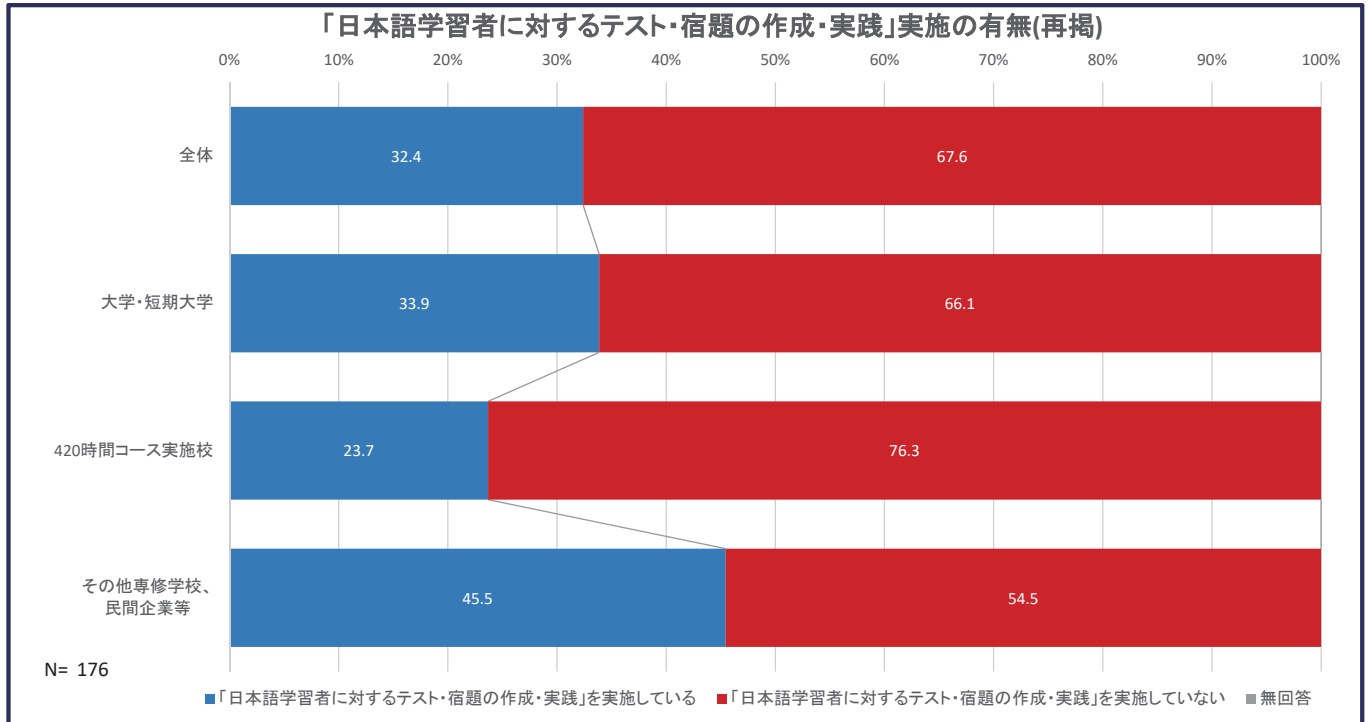
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

54

「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」について 実施の有無(再掲)

*「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践を実施しているのは3割強である。
- 実施率は、相対的に420時間コース実施校で低く、その他専修学校・民間企業等が高い。



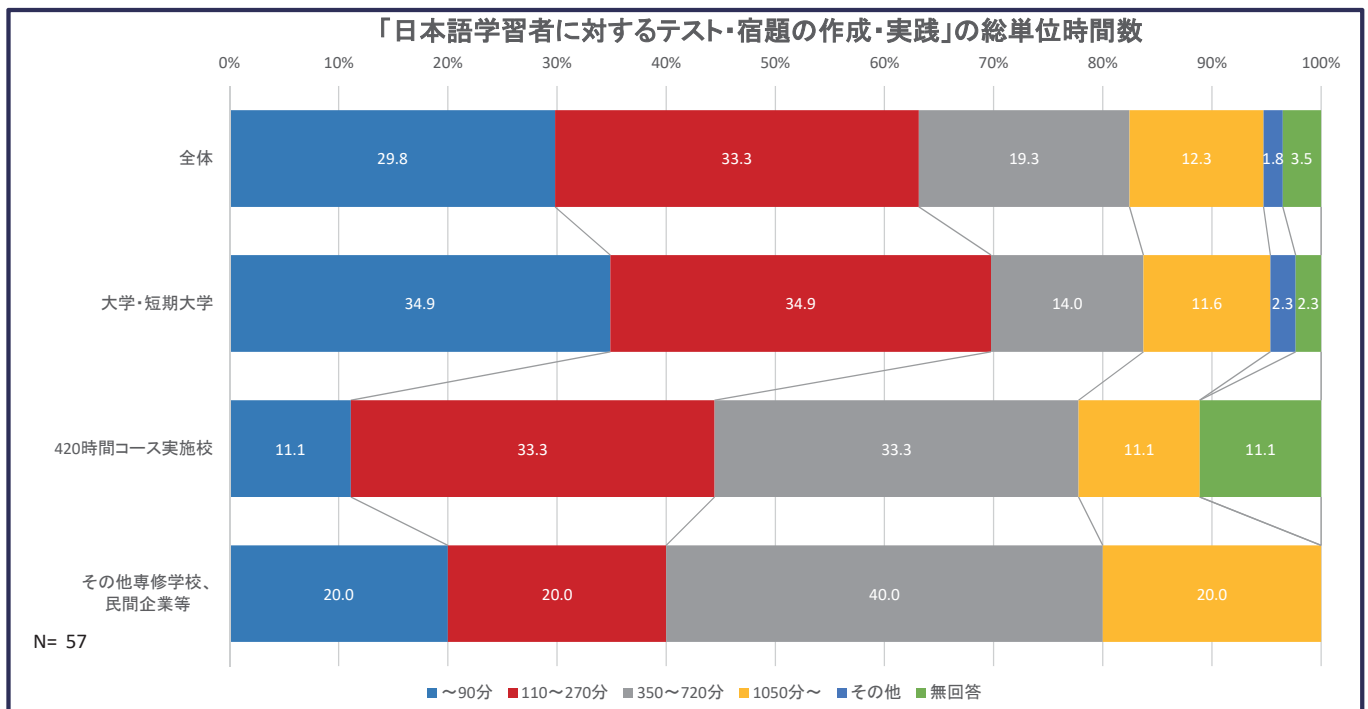
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

55

「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」について 総単位時間数

*「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践を実施している機関について、総単位時間数を見ると、全体の6割強が「270分以下」としている。
- 大学・短期大学では7割弱が「270分以下」としているのに対して、420時間コース実施校では4割、その他専修学校・民間企業等では6割が「350分以上」としている。



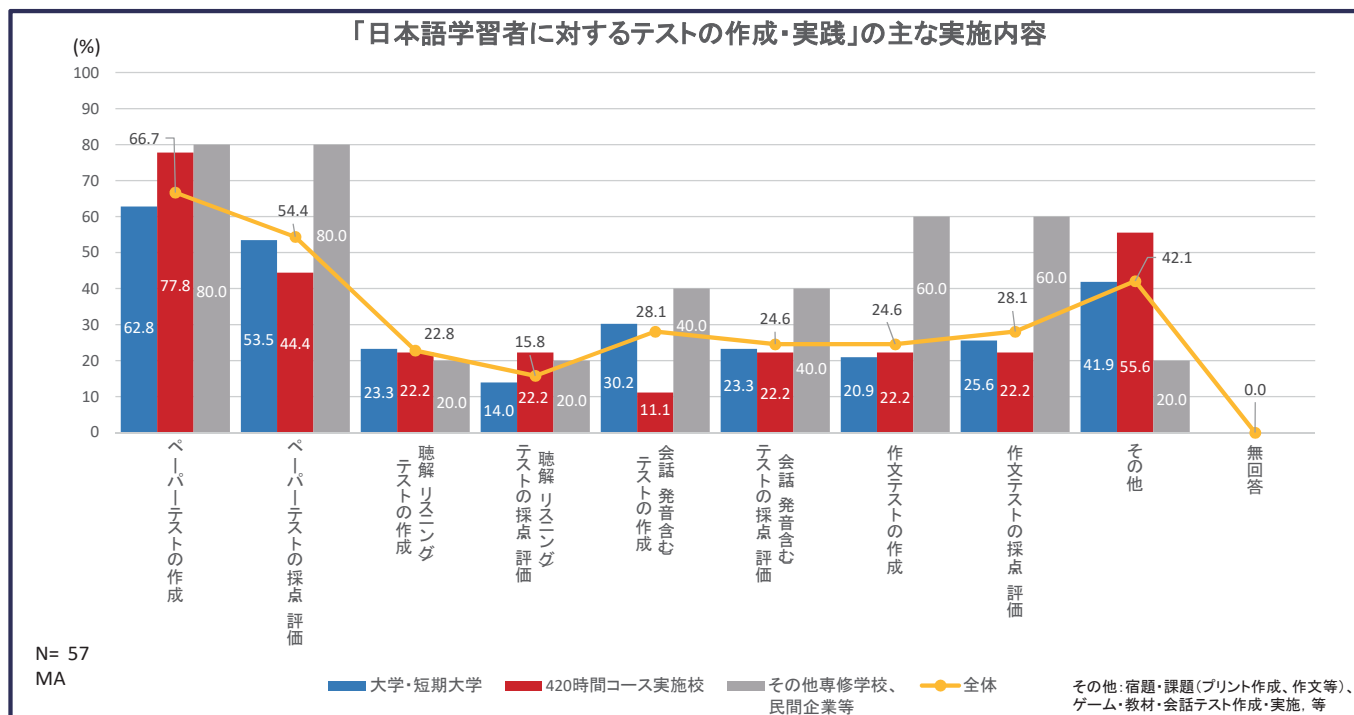
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

56

■ 「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」について 主な実施内容

* 「日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語学習者に対するテスト・宿題の作成・実践を実施している機関について、主な実施内容を見ると、全体の7割弱が「ペーパーテストの作成」、5割強が「ペーパーテストの採点・評価」を挙げている。
- 大学・短期大学、その他専修学校・民間企業等は、「会話（発音含む）テストの作成」を挙げる割合が若干高い。
- その他専修学校・民間企業等は、「ペーパーテストの採点・評価」「会話（発音含む）の採点・評価」「作文テストの作成」「作文テストの採点・評価」を挙げる割合が若干高い。



出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

57

(8) 「その他の実施事項」について (概要)

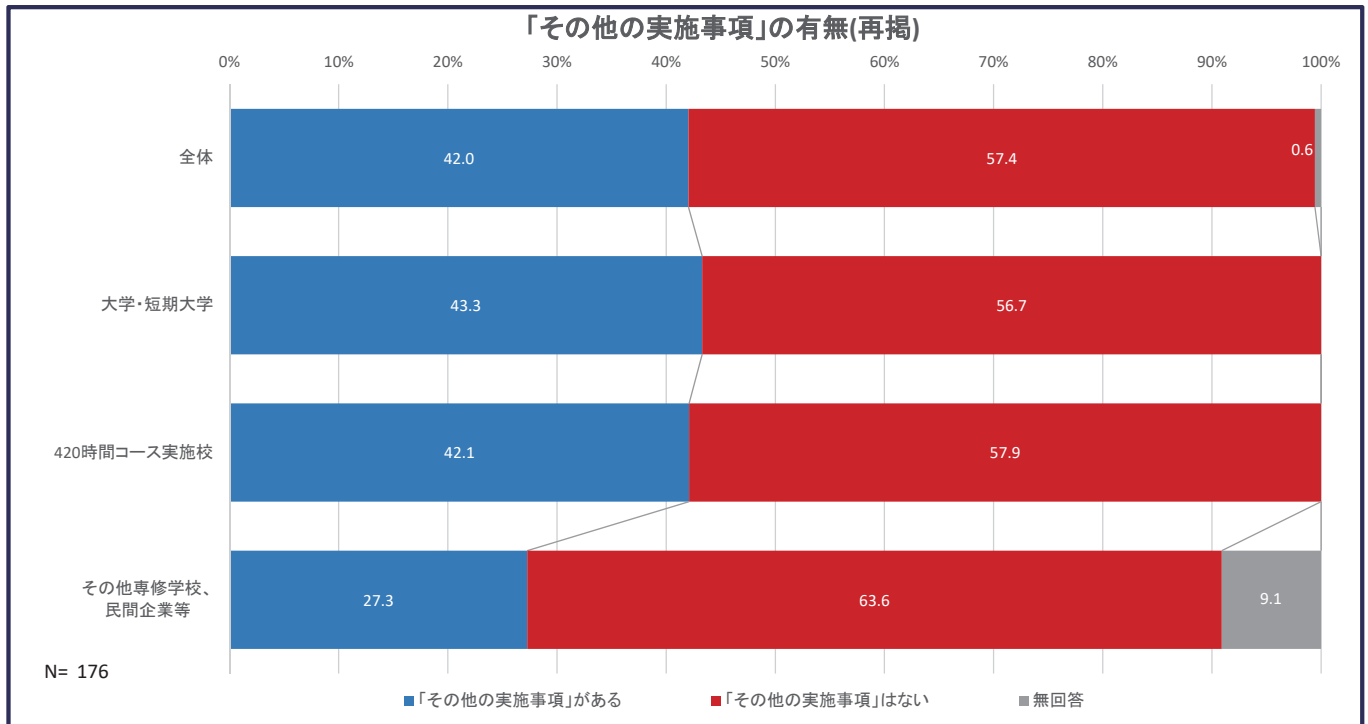
出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

58

■ 「その他の実施事項」について 実施の有無(再掲)

* 「教育実習」を実施しているとした機関のみの回答

- 教育実習を実施している機関の内、4割がその他の実施事項を行っている。
- その他専修学校・民間企業等では、実施していない割合が若干高い。



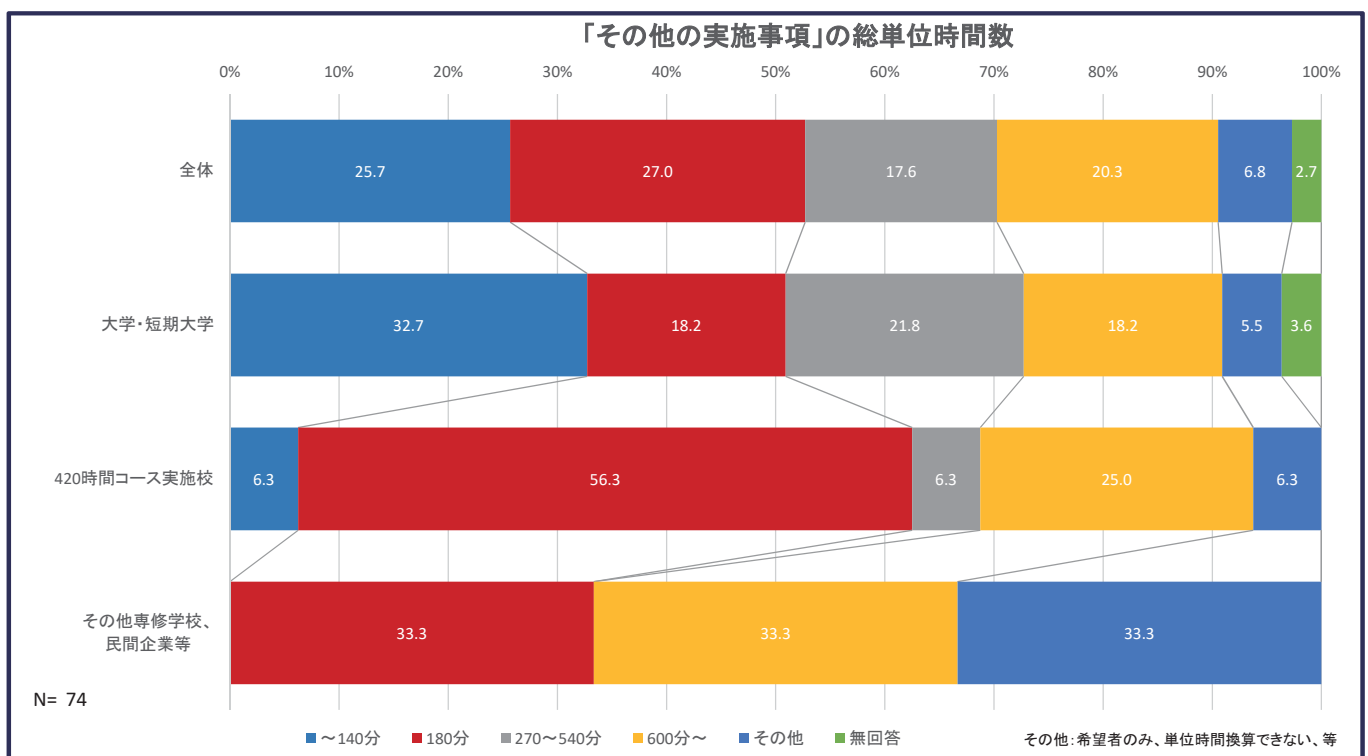
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

59

■ 「その他の実施事項」について 総単位時間数

* 「その他の実施事項」を実施しているとした機関のみの回答

- その他の実施事項を実施している機関について、総単位時間数を見ると、全体の7割が「540分以下」としている。
- その他専修学校・民間企業等では、3割が「600分以上」としている。



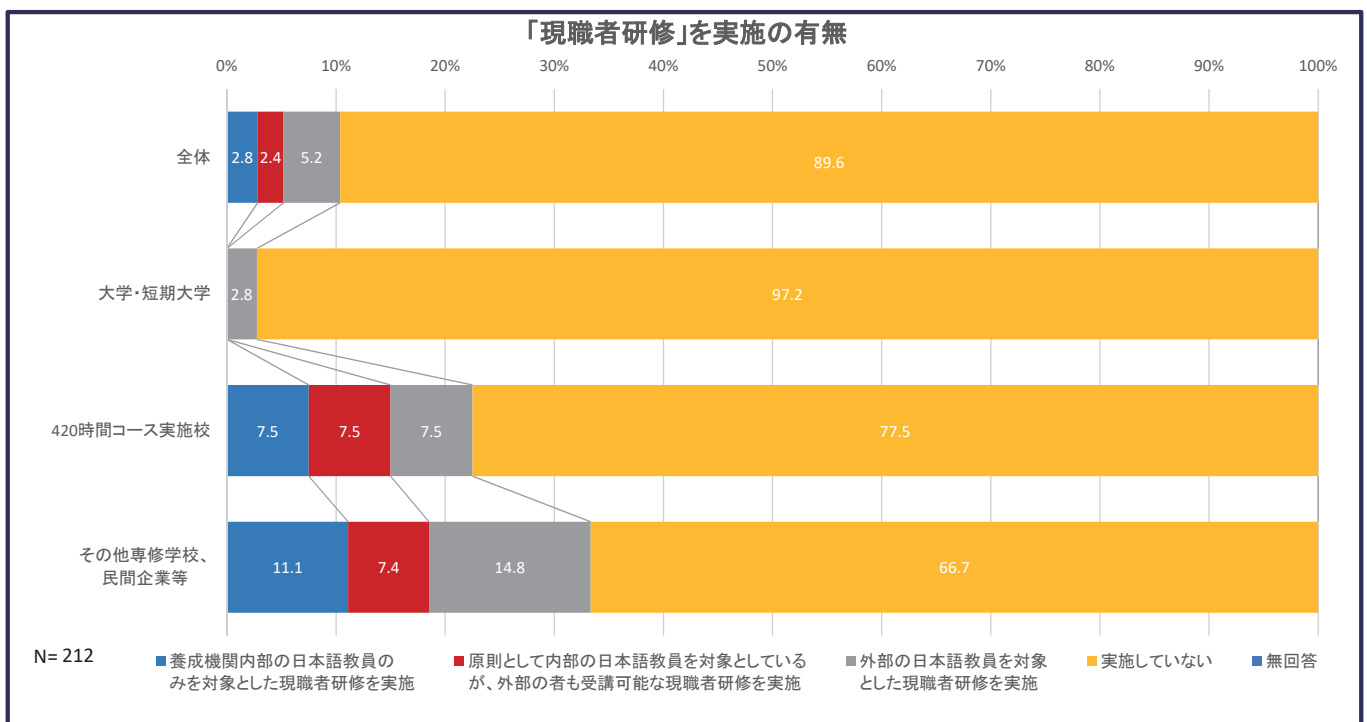
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

60

3. 日本語教員現職者に対する研修内容に関するアンケート調査結果 (概要)

■ 「日本語教員現職者に対する研修」について 実施の有無

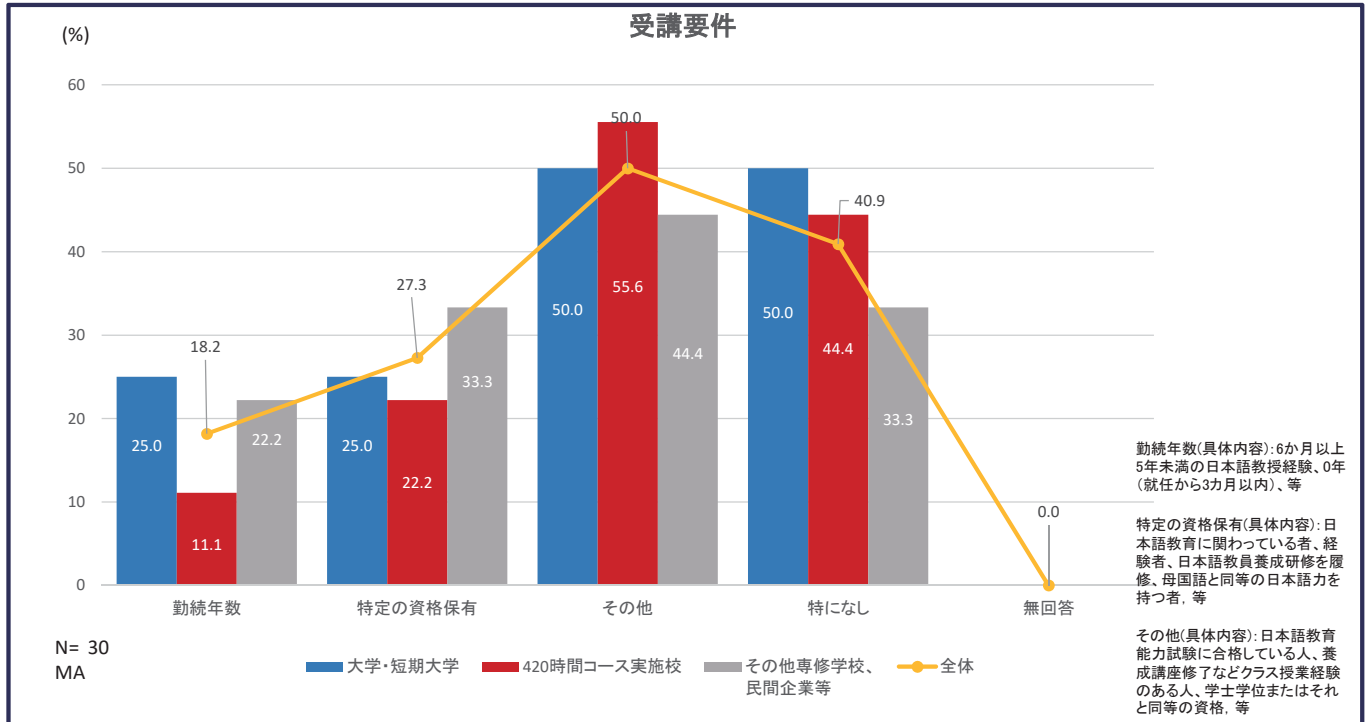
- 日本語教育を実施している機関の内、1割が現職者研修を実施しており、9割は実施していない。
- 大学・短期大学では実施している機関がごく一部(3%)なのに対して、420時間コース実施校では2割強、その他専修学校・民間企業等では、3割強が何らかの現職者研修を実施している。



「日本語教員現職者に対する研修」について 受講要件

* 「日本語教員現職者に対する研修」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員現職者に対する研修を実施している機関について、受講要件を見ると、全体の5割が「その他」としている。4割が「特になし」としている。
- 大学・短期大学では、「勤続年数」を挙げる割合が相対的に高い。



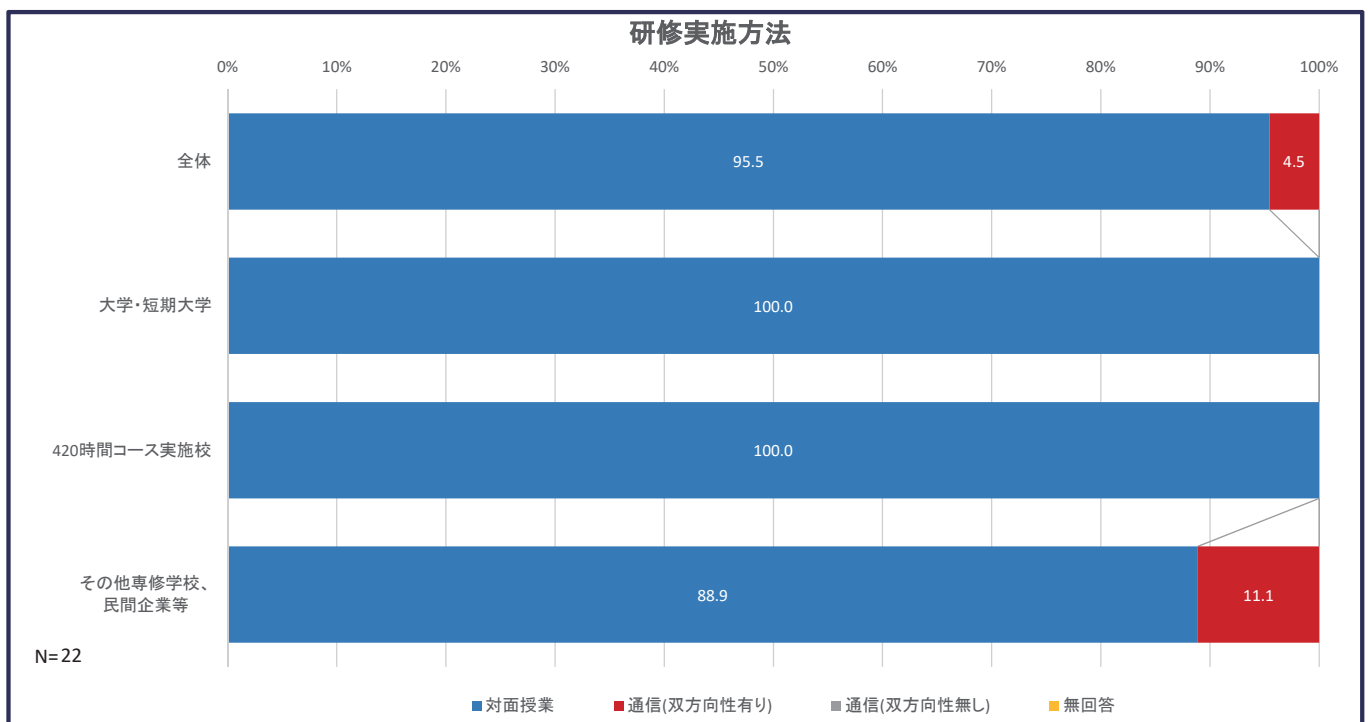
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

63

「日本語教員現職者に対する研修」について 研修実施方法

* 「日本語教員現職者に対する研修」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員現職者に対する研修を実施している機関の内、ほぼ全ての機関が「対面授業」を行っている。
- その他専修学校・民間企業等では、一部、通信(双方向性有り)による実施も行われている。



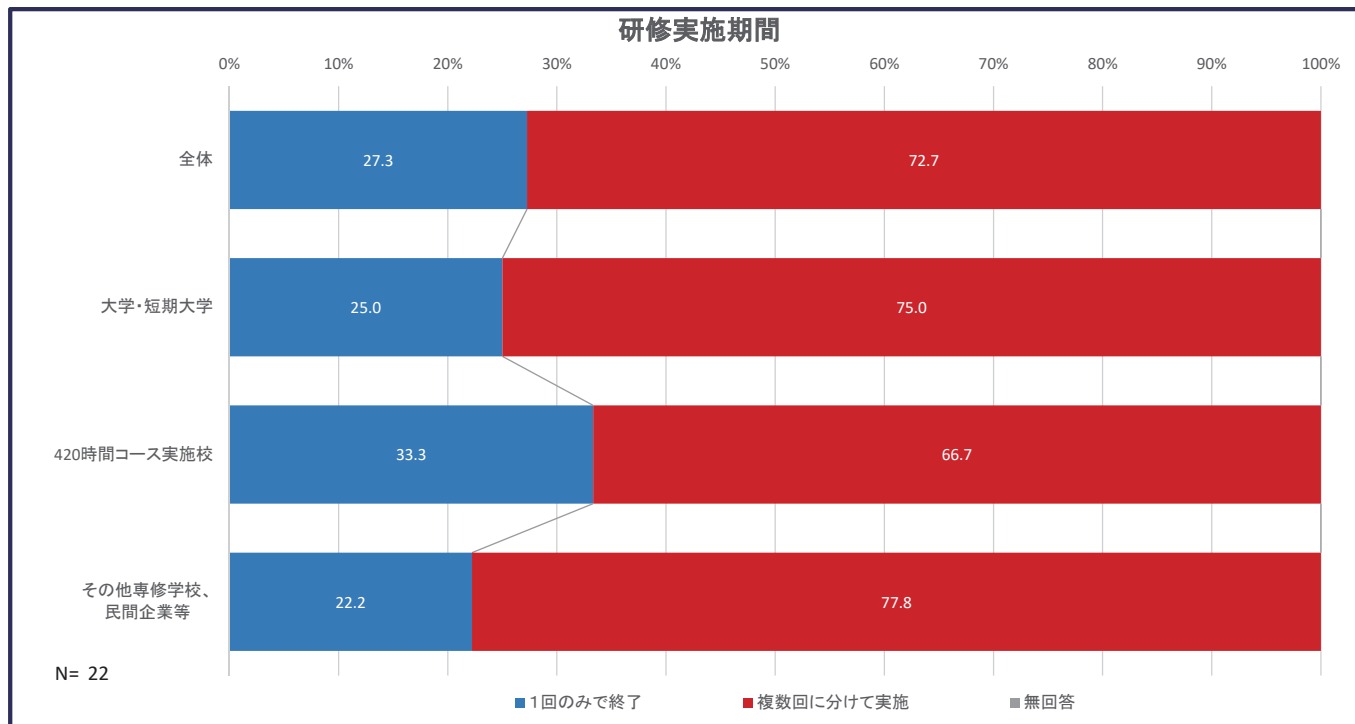
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

64

■ 「日本語教員現職者に対する研修」について 研修実施期間

* 「日本語教員現職者に対する研修」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員現職者に対する研修を実施している機関の内、3割が「1回のみで終了」としており、7割が「複数回に分けて実施」している。
- 420時間コース実施校では、「1回のみで終了」とする割合が若干高い。



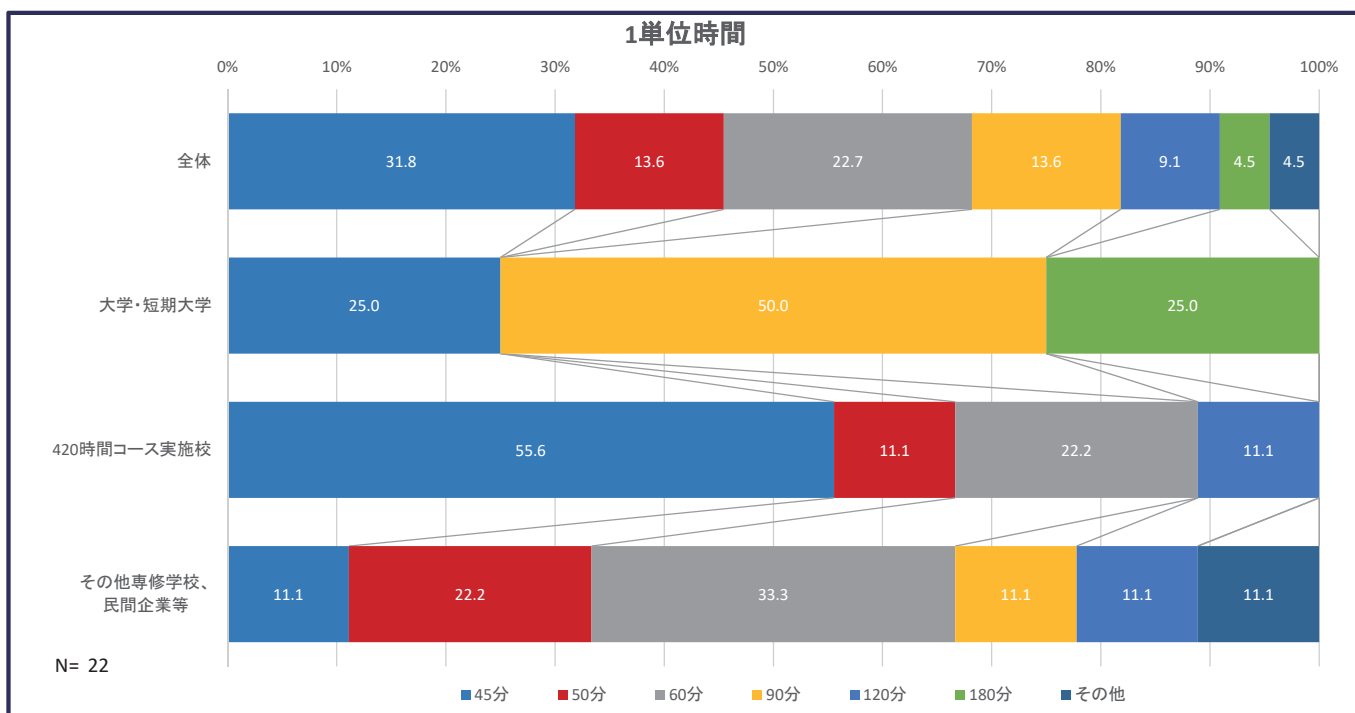
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

65

■ 「日本語教員現職者に対する研修」について 研修における1単位時間

* 「日本語教員現職者に対する研修」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員現職者に対する研修を実施している機関について、研修における1単位時間を見ると、全体の7割弱が「60分以下」としている。
- 大学・短期大学では8割弱が「90分以上」としているのに対して、420時間コース実施校では9割弱、その他専修学校・民間企業等では6割強が「60分以下」である。



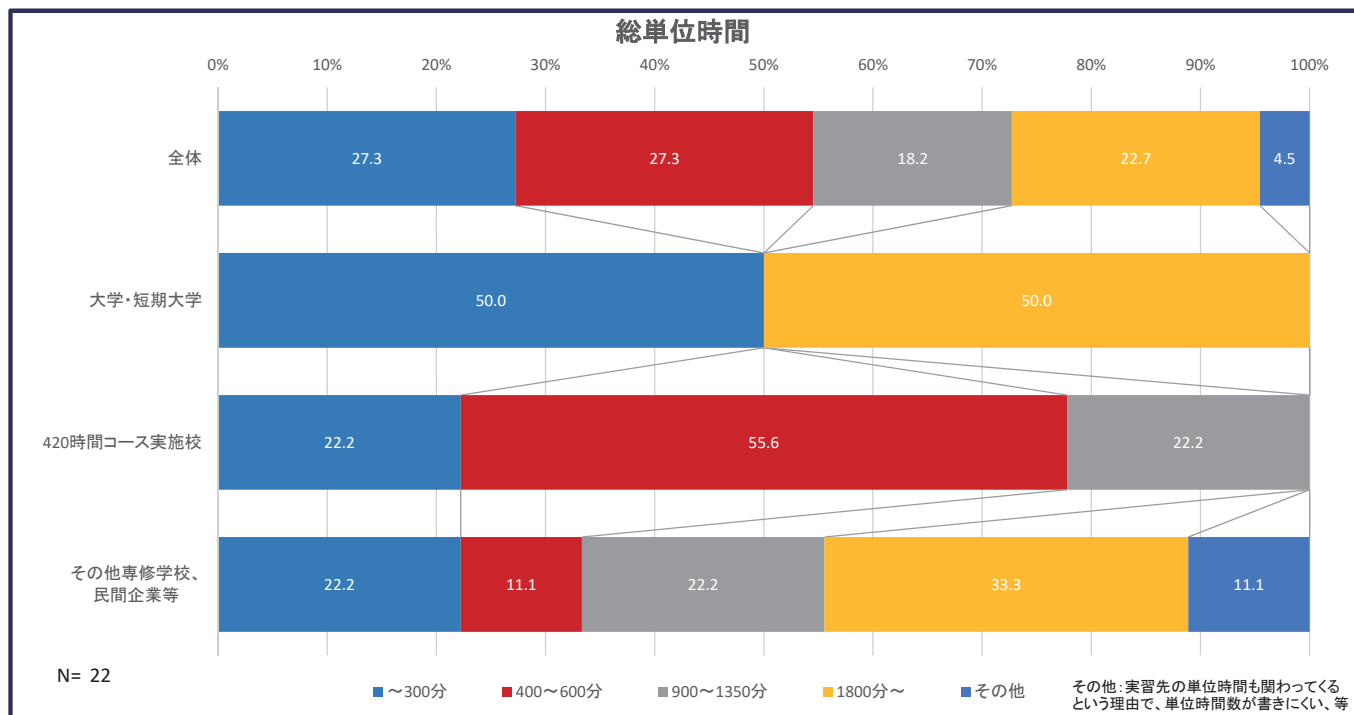
出典:文化庁「H29年度日本語教育総合調査」

66

■ 「日本語教員現職者に対する研修」について 研修における総単位時間数

* 「日本語教員現職者に対する研修」を実施しているとした機関のみの回答

- 日本語教員現職者に対する研修を実施している機関について、研修における総単位時間数を見ると、全体の6割弱が「600分以下」としている。
- 大学・短期大学では5割が「300分以下」としているのに対して、420時間コース実施校では8割弱、その他専修学校・民間企業等では6割強が「400分以上」としている。



出典: 文化庁「H29年度日本語教育総合調査」